課長		課長補佐		合議		係長		係		検算	

設計年月日	平成27年10月23日

工　事　設　計　書

工事名　　ユーフォリア千里浜配管･熱交換器改修工事

工事箇所　　羽咋市千里浜町地内

竣工期　平成２８年２月９日　（工期　　日間）

詳細は別紙設計並びに調書図面の通り

附属図面　　葉

右仕様

設　計　用　紙　　石川県羽咋市

一、工事は左の仕様、図面並びに設計内訳書に基づき施工すべし

一、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修最新版建築・電気設備・機械設備標準仕様書による

一、係員の指示による

工　事　費　計　算　書

工事費一金　　円也

但し、　ユーフォリア千里浜配管・熱交換器改修工事

名　称	概　要	数　量		金　額	出来高 %	出来高 金額	備　考
A．直　接　工　事　費							
改　修　工　事		一式					
その　他　工　事		一式					
小　計							
B．共　通　仮　設　費	安全管理費含む						
改　修　工　事		一式					
その　他　工　事		一式					
小　計							

名　　称	概　　要	数　　量		金　　額	出来高 %	出来高 金　　額	備　　考
純 工 事 費							
				0			
改 修 工 事		一式		0			
その他工事		一式		0			
小　　計				0			
C．諸 経 費							
(1) 現 場 管 理 費							
				0			
改 修 工 事		一式		0			
その他工事		一式		0			
小　　計				0			
発生材処分費		一式					
工 事 原 価 計							
(2) 一 般 管 理 費		一式					
契 約 保 証 費		一式					
D．工 事 価 格 計				0			
E．消 費 税 相 当 額		一式	8%	0			
総　　計				0			

（三号様式）

設　計　内　訳　書	設　計	平成　年　月　日	設　計　者	
	建設場所			

工事費　　一金

但し，ユーフォリア千里浜 配管・熱交換器改修工事　直接工事費

名　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 %	出来高 金額	備考
1.熱交換器更新工事		式	1					
2.配管工事		式	1					
3.撤去工事		式	1					
合　計								

（三号様式）

名　　称	品質･形状･摘要	単位	数　量	単　価	金　　額	出来高		備　考
						%	金　額	
1.熱交換器更新工事		式	1					
2.配管工事		式	1					
3.撤去工事		式	1					
合　　計								

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
1.熱交換器更新工事								
ＨＥ-11（大浴場）	SUS-ﾁﾀﾝ							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	2					
同上据付費		基	2					
ＨＥ-12（圧注気泡浴）	SUS-SUS							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	2					
同上据付費		基	2					
ＨＥ-13（うたせ湯）	SUS-SUS							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	2					
同上据付費		基	2					
ＨＥ-14（掛け湯）	SUS-SUS							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	2					
同上据付費		基	2					
ＨＥ-15（露天風呂）	SUS-ﾁﾀﾝ							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	2					
同上据付費		基	2					
ＨＥ-22（子供用プール）	SUS-SUS							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	1					
同上据付費		基	1					
ＨＥ-23（ﾎｯﾄﾀﾌﾞ）	SUS-SUS							
多管式熱交換器	熱交換能力	台	1					
同上据付費		基	1					
ＨＥ-21（温水プール）	既存熱交換器プレート増設							
プレート熱交換器改造費	熱交換能力	式	1					
多管式熱交換器保温工事		式	1					
多管式熱交換器廻り	配管接続替え工事	式	1					
1.熱交換器更新工事								
合　計								

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
2.配管工事								
大浴槽循環配管更新工事								
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	機械室・便所　100A	m	47					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　40A	m	4					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　50A	m	13					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　65A	m	22					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　75A	m	6					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　100A	m	62					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	屋内露出･ｱﾙﾐｶﾞﾗｽ ｸﾛｽ100A	m	47					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 40A	m	4					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 50A	m	13					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 65A	m	22					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 80A	m	6					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 100A	m	62					
樹脂製ﾎﾞｰﾙ弁	40A	個	2					
樹脂製ﾎﾞｰﾙ弁	50A	個	6					
大浴槽ジャグジー配管更新工事								
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	機械室・便所　100A	m	5					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　65A	m	9					

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　　100A	m	37					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	屋内露出･ｱﾙﾐｶﾞﾗｽ ｸﾛｽ100A	m	5					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 65A	m	9					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 100A	m	37					
露天風呂循環配管更新工事								
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	機械室・便所　　65A	m	64					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　　65A	m	71					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	屋内露出･ｱﾙﾐｶﾞﾗｽ ｸﾛｽ65A	m	64					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
温水管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 65A	m	71					
源泉配管改修工事								
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	機械室・便所　　50A	m	19					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　　50A	m	21					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
給湯管 保温	屋内露出･ｱﾙﾐｶﾞﾗｽ ｸﾛｽ50A	m	19					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
給湯管 保温	屋外･多湿　ｽﾃﾝﾚｽ 50A	m	21					
ｶﾞｽｾﾊﾟﾚｰﾀｰ移設工事		基	1					
同上壁掛架台		個	1					
樹脂製ﾎﾞｰﾙ弁	50A	個	3					
通気金具		個	1					

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
機械はつり補修	100～150mm 75mm	箇所	2					
機械はつり補修	100～150mm 125mm	箇所	1					
ピット内給湯配管主管改修工事								
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　　40A	m	113					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　　75A	m	91					
給湯　(改修用)								
耐熱性硬質ﾎﾟﾘ塩化ﾋﾞﾆﾙ管(HTVP)	屋外架空・暗渠　　100A	m	13					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
給湯管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 40A	m	113					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
給湯管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 80A	m	91					
	ｸﾞﾗｽｳｰﾙ							
給湯管 保温	床下･暗渠内・着色ｱﾙﾐｶﾞﾗｽｸﾛｽ 100A	m	13					
	10K　(ねじ)							
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼仕切弁	40A　(内ねじ)	個	3					
	10K　(ｳｴﾊｰ)							
一般配管用ｽﾃﾝﾚｽ鋼ﾊﾞﾀﾌﾗｲ弁	80A	個	3					
	樹脂製○形							
伸縮管継手	40A	個	8					
	樹脂製U型							
伸縮管継手	80A	個	4					
	樹脂製U型							
伸縮管継手	100A	個	1					
温水洗浄便座設置工事								
温水洗浄便座		組	5					
給水　(改修用)	ねじ接合							
ﾎﾟﾘ粉体ﾗｲﾆﾝｸﾞ鋼管(SGP-PB)	機械室・便所　　20A	m	33					
	10K　(ねじ・給水用)							
仕切弁(管端防食ｺｱ)	20A	個	1					

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
	ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ							
給水管 保温	屋内露出･合成樹脂製ｶﾊﾞｰ20A	m	18					
	ﾎﾟﾘｽﾁﾚﾝ							
給水管 保温	天井･PS内･ｱﾙﾐｶﾞﾗｽ化粧筒 20A	m	15					
機械はつり補修	100～150mm 50mm	箇所	6					
天井点検口		箇所	10					

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
3.撤去工事								
撤去工事	機器類（熱交換器）	式	1					
撤去工事	機器類（源泉）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管（大浴槽）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管保温（大浴槽）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管（露天風呂）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管保温（露天風呂）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管（大浴槽ｼﾞｬｸﾞｼﾞｰ）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管保温（大浴槽ｼﾞｬｸﾞｼﾞｰ）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管（源泉）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管保温（源泉）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管（給湯）	式	1					
撤去工事	温泉循環配管保温（給湯）	式	1					
廃材運搬費	機器類（金属）	m3	1					
廃材運搬費	機器類（樹脂）	m3	6					
廃材運搬費	機器類（配管）	m3	3					
廃材運搬費	機器類（保温材）	m3	9					
3.撤去工事								
合　計								

（三号様式）

設　計　内　訳　書	設　計	平成　年　月　日	設　計　者	
	建設場所			

工事費　　一金

但し，ユーフォリア千里浜 配管・熱交換器改修工事　発生材処分費

名　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 %	出来高 金額	備考
1.廃材処分費		式	1					
合　計								

名　　称	品質･形状･摘要	単位	数　量	単　価	金　　額	出来高		備　考
						%	金　額	
1.廃材処分費		式	1					
合　　計								

名　　称	品質・形状・摘要	単位	数量	単価	金額	出来高 数量	出来高 金額	備考
1.廃材処分費								
廃材処分費	機器類（金属）	kg	424					
廃材処分費	機器類（樹脂）	kg	150					
廃材処分費	機器類（配管）	kg	1,202					
廃材処分費	機器類（保温材）	kg	172					
1.廃材処分費 合　計								

ユーフォリア千里浜 配管・熱交換器改修工事

ＮＯ	図　面　名　称	縮尺
M -00	表紙・図面リスト	
M -01	工事仕様書（機械設備）　５枚組	N.S
M -02	工事仕様書（機械設備）　２／５	N.S
M -03	工事仕様書（機械設備）　３／５	N.S
M -04	工事仕様書（機械設備）　４／５	N.S
M -05	工事仕様書（機械設備）　５／５	N.S
M -06	配置図・付近見取図	1/200
M -07	既存配管系統図（給排水）	N.S
M -08	１階　給湯・源泉配管平面図	1/200
M -09	２階　給湯・源泉配管平面図	1/200
M - 10	機械室　配管平面詳細図（改修前後）	1/50
M - 11	ろ過機械室　配管平面詳細図	1/50
M - 12	温泉　配管平面図・配管系統図	1/100
M - 13	ホール廻り　給湯・源泉配管平面図	1/100
M - 14	ろ過設備　機器表	N.S
M - 15	便所詳細図	1/50

訂正　。　。		株式会社 アスカ設備研究所	承　認	確　認	担　当	工事名称 ユーフォリア千里浜 配管・熱交換器改修工事	図面名称 表紙・図面リスト	縮尺 A1：N.S A3：N.S
。　。								設計年月日 2015．9．16 枚ノ内
。　。								図面番号 M－00
。　。								

工　事　仕　様　書　（機械設備）

Ⅰ．工 事 概 要

1. 工 事 名 称　ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事

2. 工 事 場 所　羽咋市千里浜町　地内

3. 完 成 期 日　平成 ２８年 ２ 月 ９ 日

4. 建 物 概 要

建　物　名　称	構　造	階　　数	延面積（㎡）	消防令別表第一	備　考
ユーフォリア千里浜	RC,SRC	２階建(地階　階,塔屋 １ 階)	2,998.02	１６－イ	

5. 別契約の関連工事

⊙建築工事　⊙電気設備工事　・給排水衛生設備工事　・空気調和設備工事　・暖房設備工事
・冷房設備工事　・電話設備工事　・合併処理設備工事　・昇降機設備工事　・自家発電設備工事
・屋外付帯工事　・植栽工事　・厨房機器設備工事　⊙熱源改修工事　・

6. 工 事 種 目　（●印を付けたものを適用する）

建物別及び屋外 ＼ 工事種別	工　事　種　別					
	ﾕｰﾌｫﾘｱ					屋　外
○ 空気調和設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 暖房設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 換気設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 排煙設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 自動制御設備	一式	一式	一式	一式	一式	
● 衛生器具設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 給水設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 排水設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
● 給湯設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ 消火設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 厨房機器設備	一式	一式	一式	一式	一式	
○ ガス設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ さく井設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 合併処理設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
○ 融雪設備	一式	一式	一式	一式	一式	一式
● 撤去工事	一式	一式	一式	一式	一式	一式
● 温泉循環設備	一式					

7. 指定部分　・無　・有（指定期日：平成　年　月　日）　対象部分（　　）

8. 工 事 内 容

老朽化した配管並びに昇温用熱交換器の更新を行う
昇温用熱交換器更新工事
１次側温水温度変更に伴い熱交換器を更新する

配管更新工事
温泉循環配管（大浴槽・露天風呂）
ピット内給湯配管（往き・還り）
源泉配管の供給方法を変更する
源泉ポンプで直接屋上高置水槽に供給する
ガスセパレーターは屋上へ移設する

洋風便器の便座を温水洗浄便座に交換する

不要となる配管・機器は撤去する

9. 設備概要（○印を付けたものを適用する）

方式及び種別	設　　備　　内　　容
空調方式	・ ダクト方式　・ＦＣＵ方式　⊙ＦＣＵダクト併用方式 ⊙ パッケージ方式
暖房方式	⊙ 温水暖房　・ 蒸気暖房　・ 温風暖房
主熱源	・
自動制御方式	⊙ 電気式　・ 電子式　・ デジタル式
給水方式	・水道直結式　・水道直結増圧式　⊙加圧式　・高置水槽式（　・上水　・　）
排水方式	建物内汚水、雑排水（・　分流　・　合流　） 建物外放流 1)　汚　水　・ 直放流下水管　⊙ 合併処理槽 2)　雑排水　・ 直放流下水管　⊙ 合併処理槽
消火設備の種別	⊙ 屋内消火栓設備　・ スプリンクラー設備　・ 泡消火設備 ・ 不活性ガス消火設備　・ハロゲン化物消火設備　・ 粉末消火設備 ・ 屋外消火栓設備　・ 連結散水設備　・ 連結送水管 ・ フード等用簡易自動消火設備
ガスの種別	・ 都市ガス（種別　，発熱量　MJ／Nm^u3　，供給事業者名　） ⊙ 液化石油ガス

Ⅱ．工 事 仕 様

1．一 般 仕 様

1) 新築工事において図面及び本工事仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成２５年版）」（以下、「標準仕様書」という。）及び「公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）（平成２５年版）」（以下、「標準図」という。）による。
改修工事において図面及び本工事仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）（平成２５年版）」（以下、「改修標準仕様書」という。）及び標準図による。ただし、改修標準仕様書に記載されていない事項は標準仕様書による。

2) 耐震設計・施工については独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針(2014年版)」による。

3) 電気設備工事及び建築工事を本工事に含む場合は、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書・改修標準仕様書を適用する。

2．特 記 仕 様

1) 章、項目は●印の付いたものを適用する。

2) 特記事項のうち選択する項目は・印に○の付いたものを適用する。

3) 斜線で消去した章は適用しない。

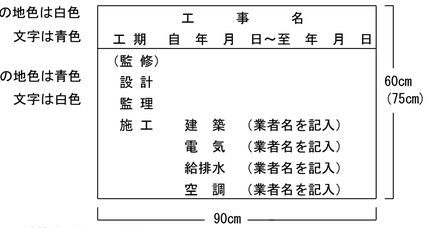
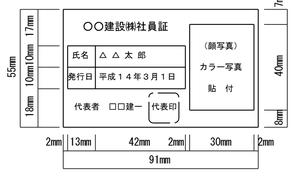
章	項　　目	特　　記　　事　　項
● 一般共通事項	●技能士の適用	⊙ 配管施工(配管工事)　・ 建築板金施工(風道製作及び取付け)　⊙ 熱絶縁施工(保温工事) ・ 冷凍空気調和機器施工(チリングユニット．パッケージ形空気調和機の据付及び整備)　(1-1.5.2)
	●機材等	1) 本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの、又は、これらと同等のものとする。ただし、これらと同等のものとする場合は、監督員の承諾を受ける。　(1-1.4.2(a)) 2) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」（グリーン購入法）に規定される特定調達品は下記による。　(1-1.4.1(a)) 「公共工事」の品目 ・ 吸収冷温水機　・ 氷蓄熱式空調機器 ・ ガスエンジンヒートポンプ式空気調和機　・ 排水、通気用再生硬質ポリ塩化ビニル管 ・ 自動水栓　・ 自動洗浄装置及びその組み込み小便器 ・ 洋風大便器　・ 下塗用塗料（重防食） ・ 送風機　・ ポンプ グリーン購入法の判断基準を満たすことを確認する。 3) 化学物質を発散する建築材料等　(1-1.4.1(b)) 本工事の建物内部で使用する建築材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有するものとし、次のとおりとする。 ① JIS及びJASのF☆☆☆☆規格品 ② 建築基準法施行令第20条の7第4項による国土交通大臣認定品 ③ 下記表示のあるJAS規格品 a. 非ホルムアルデヒド系接着剤使用 b. 接着剤等不使用 c. ホルムアルデヒドを発散しない材料使用 d. ホルムアルデヒドを発散しない塗料等使用 e. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない材料使用 f. 非ホルムアルデヒド系接着剤及びホルムアルデヒドを発散しない塗料等使用
	●機材の品質・性能証明	1) 設備機材は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明資料又は外部機関等が発行する資料等の写しを監督員に提出して承諾を受ける。　(1-1.4.2(C)) なお、標準仕様書に規定される製作図、試験成績表等を含む。 2) 本工事で使用する設備機材等は、指定表に規定するもの、又は、これらと同等のものとする。なお、「評価名簿」に規定するものについては、「建築材料・設備機材等品質性能評価事業設備機材等評価名簿（最新年版）」（(一社)公共建築協会）によるほか、これらと同等のものとする。　H20.4.1 改訂 3) 主要機材は、発注前に「使用予定機材一覧表」を提出して監督員の確認をうける。

章	項　　目	特　　記　　事　　項
● 一般共通事項	●保険の付保及事故の補償	5) 請負契約約款第13条第2項に定める監督員の検査を受けて使用すべき工事材料は次のものとする。　(1-1.4.5) ・ 衛生器具　・ 空調機器　・ ダクト及び付属品　・ 消火機器　・ 塗装材料 ・ 合併処理槽　・ 厨房機器　・ ポンプ類　・ 熱源機器　・ タンク類　・ 排水金具 １．受注者は、雇用保険法、労働者災害補償保険法、健康保険法及び中小企業退職金共済法の規定により、雇用者等の雇用形態に応じ、雇用者等を被保険者とするこれらの保険に加入しなければならない。 ２．受注者は、雇用者等の業務に関して生じた負傷、疾病、死亡及びその他の事故に対して責任をもって適正な補償をしなければならない。 ３．受注者は、建設業退職金共済制度に加入し、その掛金収納書の写しを工事請負契約締結後１ヶ月以内及び工事完成時に、監督員を通じて発注者に提出しなければならない。　H20.4.1改訂
	●工事の実績情報の登録	請負金額1,000万円以上のものは登録を行う。　(1-1.1.4)　H21.8.1改訂
	●中間検査	中間検査の実施　・有　（　回）　⊙無　(1-1.6.2(a)(2)) 実施時期　・天井下地完了時　・
	●公共事業労務費調査等に対する協力	・　受注者は、当該工事が発注者の実施する公共事業労務費調査に対象工事となった場合には、次の各号に掲げる協力をしなければならない。工期経過後においても同様とする。 １）調査票等に必要事項を正確に記入、発注者に提出する等必要な協力をしなければならない。 ２）調査票等を提出した事業所が、事後に発注者が行う調査・指導の対象になった場合には、その実施に協力しなければならない。 ３）正確な調査票等の提出が行えるよう、労働基準法等に従い就業規則を作成すると共に賃金台帳を調整・保存する等、日頃より使用している現場労働者の資金時間管理を適切に行わなければならない。 ４）対象工事の一部について下請け工事を締結する場合には、当該下請け工事の受注者（当該下請け工事の一部に係る二次以降の下請け人を含む。）が前各号と同様の義務を負う旨を定めなければならない。 ・　本工事が「建設副産物実態調査」の対象である場合、工事完了後速やかに調査票を作成し、監督員に提出しなければならない。　H20.4.1 改訂
	●部分払いの対象工事材料	請負契約約款第37条第１項に定める部分払いの対象とする工事材料は次のものとする。 ・ 配管　・ 機器　・ 器具　・
	●保険	請負契約約款第49条に定める火災保険等は次のものとする。（加入期間は引渡し日まで） ⊙ 組立保険　・ 建設工事保険
	●監督職員事務所	⊙ 設けない　・ 設ける[・１号　・２号　・３号　・４号　・５号] （10㎡程度）（20㎡程度）（35㎡程度）（60㎡程度）（100㎡程度） 監督職員事務所に設ける備品等 ・保護帽　・安全帯　・長靴　・合羽　・机　・椅子　・懐中電灯 ・書棚　・黒板　・寒暖計　・　・　(2-4.1.1.(2))
	●下請負人	下請負人の決定については工事着手前に下請負人通知書を提出すること。 下請負人は、建設業の許可を有する者を選定するよう努め、下請負人の許可書の写しを提出すること。
	●工事報告書	工事総合進捗表、工事日誌、工事出面報告書、工事箇所図及び現況写真等を記載した工事報告書を毎月末ごとに提出する。
	●施工計画書	工事の着手に先立ち、工事の総合的な計画をまとめた総合施工計画書を作成し、監督員の承諾を受ける。　(1-1.2.2)
	●工事写真等の記録	1) 工事写真の撮影は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「営繕工事写真撮影要領（平成24年版）・同解説工事写真の撮り方（建築設備編）」による。　(1-1.2.4) 2) 請負契約約款第14条第３項に定める工事写真は次のものとする。 ・ 地中埋設配管部　⊙ 機器の基礎及びアンカーボルト埋設部　⊙ 保温・塗装工程 ・ 天井、トレンチ内の隠ぺい箇所 3) 区分による規格、枚数、部数は次による。 区分｜分類｜規格｜撮影枚数｜部数｜備考 着工前｜カラー｜サービス版｜監督員の指示による｜部｜Ａ４版に整理の上、工事期間中は現場事務所に保管し、工事完成時に提出する。 工事中｜カラー｜サービス版｜監督員の指示による｜１部 完成時｜カラー｜サービス版｜監督員の指示による｜部｜Ａ４版に整理したもの 4) 完成写真は次による。 ・ 建築写真撮影業者の撮影した写真とする。　⊙ 建築写真撮影業者以外の写真でもよい。 5) 写真はＡ４版用紙に順序よく貼付又は印刷し、説明事項を記入して提出する。 6) 中間検査又は監督員の指示により、手直しを命じられた工事は、手直し前、中、後が判断できる写真を撮影し、報告書に添え提出する。

最終改訂　Ｈ２７．４．１

工事名　ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	番号　M-01
図面名　工事仕様書（機械設備）　５枚組	縮尺
監　修　羽咋市教育委員会	
設　計　株式会社 アスカ設備研究所	

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	●官公署への手続	工事に必要な官公署などへの手続は受注者が遅滞なく行う。 関係法令等に基づく官公署その他の関係機関の検査においては、その検査に必要な資機材及び労務等を提供し、これに直接要する費用を負担する。 (1-1.1.3)
	●経費の負担	この工事に必要な一切の仮設費及び諸経費等は、設計図書に明記のある場合の外は、受注者の負担とする。
	●工事用電力・水その他	この工事に必要な工事用電力、水及び諸手続などの費用は、すべて受注者の負担とする。 構内既存の施設を ⊙ 利用できる ・ 利用できない
	●敷地状況等の確認	工事の着工に先立ち地下に埋設された配管、ケーブル等の有無を関係機関の協力を得て確認し報告すると共に、事故を未然に防ぐよう留意する。 (1-1.1.12) 改修部分は、事前調査を行う。 (1-1.3.5(d))
	●公衆災害防止等	建設工事公衆災害防止対策要綱（建築工事編）及び建設副産物適正処理推進要綱を遵守して災害の防止と建設副産物の適正な処理に努める。 (1-1.3.7) (1-1.3.9)
	●工事用仮設物	構内につくることが ⊙ できる ・ できない (2-4.1.1) （すべて受注者の負担とする）
	●足場、さん橋類	⊙ 別契約の関係受注者の定置する足場、さん橋の類は無償で使用できる。 (2-4.1.1(1)) ・ 本工事で設置とする。（改修標準仕様書第1編2.2.1による）
		・ 枠組本足場（手すり先行足場） 足場を設ける場合は、手すり先行工法に関するガイドライン（厚生労働省平成21年4月発布に規定する「働きやすい安心感のある足場に関する基準」に適合する手すり、中さん及び幅木の機能を有する足場とし、足場の組立て、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の⑵手すり据置方式又は⑶手すり先行専用足場方式により行うこと。 H22.4.6 改訂
		・ 枠組本足場
	●残土処理	・ 場内敷均し ・ 場内指示場所に堆積 ・ 場外搬出適切処理 (2-4.2.1)
	●埋め戻し土	・ 根切り土の中の良質土(ただし管の周囲は山砂) ・ 山砂 (2-4.2.1)
	●再使用機器	取外した再使用機器は、清掃及び絶縁抵抗測定のうえ取付ける。ただし、絶縁劣化等使用に耐えない場合は、監督員に報告する。 (改1-1.4.3)
	●総合調整	本工事として下記の項目の測定表を提出する。 (2-1.3.2) 総合調整の項目 ・ 風量調整 ⊙ 水量調整 ・ 室内外空気の温湿度の測定 ・ 室内気流及びじんあいの測定 ・騒音の測定 ・振動の測定 ・飲料水の水質測定（・10項目 箇所 ・15項目 箇所） 測定箇所は監督員の指示による。
	●電動機	換気扇、圧力扇、厨房機器その他これらに類するものの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい. (2-1.2.1)
	●容量等の表示	1) 機器類の能力、容量等は表示された数値以上とする。 2) 電動機、燃料消費量、圧力損失は、原則として表示された数値以下とする。
	●案内板	機器等の取扱い方法及び重要な定期点検項目を書いたアクリル樹脂製の案内板を機械室に設ける。 (1-1.7.4)
	●製作図・施工図	主要機材の製作図、施工図は原則として、製作または施工開始予定日より30日以前で監督員の指示する時期に提出する。 (1-1.2.3)
	●完成図等及び保全に関する説明書の提出	建物配置図及び屋内外配管図、系統図等を作成し、原図及び陽画複写紙(製本 部)と保全に関する説明書（２部）を提出する。完成図については縮小版３部を提出する。 (1-1.7.2) (1-1.7.3) また、完成図等のＣＡＤデータを提出する。 ※「保全に関する説明書」については、別契約の建築・設備工事等がある場合は、その請負業者と連携の上作成する。 ※「保全に関する説明書」の参考資料 ・「建築物等の利用に関する説明書作成の手引き及び作例」 国土交通省ホームページ（http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_index.htm） ・「管理者のための建築物保全の手引き(改訂版)」((財)建築保全センター)
	●試験成績表、取扱説明書の提出	各機器の試験成績表、取扱説明書は、それぞれ２部を工事完成図書とともに一括して提出する。 (1-1.7.3)
	●予備品等の引渡	予備品（付属品を含む）は、引渡し目録を添えて工事完成図書とともに提出する。また鍵等はプラスチック名称板を付けて提出する。 (1-1.4.3) (1-1.7.5)
	●過積載等の防止	1)積載重量制限を超えて土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと 2)さし枠装着車、不表示車等に土砂等を積み込まず、また積み込ませないこと 3)過積載車両、さし枠装着車、不表示車等から土砂等の引き渡しを受ける等、過積載を助長することのないようにすること 4)取引関係のあるダンプカー事業車が過積載を行い、又はさし枠装着車、不表示等を土砂等運搬使用している場合は、早急に不正状態を解消する措置を講ずること 5)建設発生土の処理及び資材の購入に当たって、下請事業者及び骨材納入業者の利益を不当にに害することのないようにすること 6)「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」（昭和４２年８月２日法律第１３１号。以下「法」という。）の目的に鑑み、法第１２条に規定する団体等の設立状況を踏まえ、同団体等への加入者の使用を促進すること。 7) 1)から6)につき、元請建設業者は下請建設業者を十分指導すること (1-1.3.6)

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	●工事現場の表示板	工事現場には、下記掲示板を設置する。（記入例） (2-4.1.1)  （ ）内は、監修を委託した場合。 業者名が多くなった場合でも、縦75cm以内とする。 工事名は、各工事とも共通な名称とし、各文字は角ゴシック体とする。
	●名札の義務	請負金額1,000万円以上の工事における現場代理人及び主任（監理）技術者は名札を常時着用する。  （注意事項） ①名札として使用する用紙（台紙）は白色、寸法は名刺サイズ（縦5.5cm、横9.1cm）とする。 ②顔写真（ｶﾗｰ）のサイズは縦4.0cm×横3.0cm、また撮影する部分は胸から上の上半身とする。 ③ｹｰｽの寸法は用紙が入る大きさとする。尚、市販されているのは、縦7.3cm×横10.2cmがある。
	●施工体制台帳の作成等	建設業法第２４条の７に該当する施工体制台帳の作成が必要な工事は、当該台帳を現場に備え付け、施工体系図を工事関係者及び公衆が見やすい場所に掲げてくこと。
	●耐震施工	次に示す事項を除き、すべて建設大臣官房官庁営繕部監修の「官庁施設の総合耐震計画基準及び同解説（平成８年版）」による。 1) 設計用水平地震力 機器の重量（kgf）に、設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度（ ( )内の値は水槽類に適用する）

設置場所	耐震安全性の分類	
	特定施設	
	○ 甲類（重要機器、一般機器）	● 乙類（重要機器、一般機器）
上層階 屋上及び塔屋	２．０	１．５
中間階	１．５	１．０
一階及び地階	１．０ (1.5)	１．０

（注） 上層階の定義は次による。
２～６階建以下の場合は最上階、７～９階建の場合は上層２階、
10～12階建の場合は上層３階、13階建以上の場合は上層４階

2) 設備機器の固定方法及び計算は、独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」による。
3) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とし水平地震力と同時に働くものとする。
4) 100kg以下の軽微な機器（標準仕様書の適用を受けるものは除く）においても耐震を考慮し据付け又は取付けを行うものとするが、前記指針の方法によらなくてもよい。

	●他工事との取り合い	スリーブ、箱入れなどその他工事との取り合いは、別表－１によるものとし、施工に支障をきたさない時期までに、必要な位置、大きさ等を明示し、監督員と打合せる。 (1-1.1.7)
	●見本品の提出	請負契約約款第１４条第３項に定める見本は次のものとする。 (1-1.4.2(f)) ⊙ 保温用外装材及び補助材 ⊙ 管継手 ・ ガス、油用弁及びコア弁 ・ 排水金具 ⊙ 管接合シール ⊙ フランジ用ガスケット ・ 地中埋設標、埋設表示テープ
	●配管	1) ステンレス鋼管の接合方法は、呼び径60SU以下の場合は（ ⊙プレス ⊙拡管 ・溶接 ・ ）とする。 (2-2.5.6) 2) 建物導入部の変位吸収方法は次による。ただし、排水及び通気配管を除く。 (2-2.4.1(C)) なお、給水管、消火管、ガス管については、各項目欄による。 標準図（・ （ａ） ・ （ｂ） ・ （ｃ））による。 3) 異種接合の場合は、標準仕様書第2編2.5.17による。接合要領は標準図（異種管の接合要領）による。 (2-5.17) 4)塩ビライニング鋼管等の防食措置を施した配管と管端防食管継手との接続部は、切削ねじ接合とする。ただし、呼び径50以下のポリ粉体鋼管は、転造ねじ接合としてもよい。 (2-2.5.1)
	●管の埋設深さ	埋設深さは原則として、構内道路は（・ 60cm ・ cm ）以上、一般敷地は（・ 30cm ・ cm）以上とする。 (2-2.7.2) (2-2.8.1)
	●スリーブ等	つば付き鋼管スリーブと配管との隙間は水密性のあるシーリング材によりシーリングする。

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	●電線	電線及びケーブルの規格は、標準仕様書第4編1.5.1表4.1.11による。 (4-1.5.1)
	●はつり	既存コンクリート床、壁等の配管貫通部の穴明けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。
	●防凍保温	屋外露出部(給水管、消火管、冷温水管、膨張管、冷水管、温水管、ドレン管、弁類を含む)は防凍保温を行う。その種別は標準仕様書第2編3.1.4及び3.1.5による。(ただし、給水管及び消火管、ドレン管は 第２編3.1.5表2.3.5の e.(ハ)とする。保温材の厚さは呼び径25mm以下のものは30mm、呼び径32mm以上のものは40mm以上とする) (2-3.1.4) (2-3.1.5)
	●塗装	下記の露出金属電線管は塗装を行う。 (2-3.2.1.1) ⊙ 屋外 ・ 屋内（ ・居室 ・ ・ ） 下記の亜鉛めっきを施した露出ダクト及び露出配管は、塗装を行わない。 ⊙ 機械室 ・倉庫 ⊙電気室 ・自家発室 ・ＥＶ機械室 ・
	●吊り及び支持金物	（ ・ 水槽内 ⊙ ピット内）の吊り金物・支持金物類はステンレス鋼製（SUS304）とする。 (2-2.6.3)
	●工事監理用図面	工事設計図を１部、縮小版（Ａ３）を 部製本し現場事務所に置くものとする。
	●工事の創意工夫等	受注者は、工事施工において、自ら立案実施した創意工夫や工事特性に関する項目、または地域社会への貢献として評価できる項目に関する事項について、工事完了時までに所定の様式により提出することができる。 (1-1.5.7)
	●電子納品	⊙ 行う ・ 行わない ※別表－３「電子納品仕様書」による。
	●近接工事の諸経費調整	この工事の受注者が、近接する区域（概ね100m）において、工期が重複する 羽咋市 発注の工事を受注している場合には、全工事との合計額により定まる率によって諸経費を再計算し、これにより変更契約（減額）する。 ※「工期が重複する」とは、開札日が近接する工事の完成届を受理した日以前の場合を言う。
	●景観への配慮	・当該工事は、石川県公共工事事業景観形成ガイドラインに基づく重点事業であり、景観に配慮した工事施行に努めること。 H21.4.1 改訂
○ 空気調和暖房設備	1. 設計温湿度	

	外気		屋内 一般系統					
	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)	温度(DB)	湿度(RH)
夏期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%
冬期	℃	%	℃	%	℃	%	℃	%

	2. 煙突	・ 別途 ・ 本工事 (3-1.1.9)
	3. 煙道	鋼板製（ ・ 3.2mm ・ 4.5mm ） 伸縮継手、掃除口及びばいじん量測定口の位置は図示による。

工事名	ユーフォリア千里浜 配管・熱交換器改修工事
番号	M-02
図面名	工事仕様書（機械設備） 2／5
縮尺	———
監修	羽咋市教育委員会
設計	株式会社 アスカ設備研究所

章	項　　目	特　　記　　事　　項
○空気調和暖房設備	4. ばい煙濃度計	・ 設ける　(3-1.1.10)
	5. ばいじん量測定口	・ 設ける(測定口は径80φとし、取り付け箇所は煙道の直線部とする)　(3-1.1.9)
	6. ダクト	低圧ダクト　・ アングルフランジ工法　(3-1.14) ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ　・ スライドオンフランジ ） ・ スパイラルダクト 高圧１ダクト（適用範囲は図示による）
	7. 風量測定口	取り付け箇所は（ ・ 図示した位置　・ 送風機吐出ダクト　・ 外気取入れダクト　(3-1.14.10) ・ 空調機出口チャンバーの分岐ダクト ）
	8. チャンバー	1) 内貼りを施すチャンバーの表示寸法は外法を示す。　(3-1.14.5) 2) 空気調和機、温風暖房機に取り付けるサプライチャンバー、レタンチャンバー及び風道系で消音内貼りしたチャンバーには、点検口を設け、点検口の大きさは図示による。 3) 外壁に面するガラリーに取り付けるチャンバー及びホッパーは雨水の滞留のないように施工する
	9. 防煙ダンパー	操作方法　瞬時通電式又は電動式　(3-1.15.8) 復帰方式（ ・ 遠隔 ）　定格入力はＤＣ24Ｖ、0.7Ａ以下とする。
	10. ﾋﾞｽﾄﾝﾀﾞﾝﾊﾟｰ	復帰方式（ ・ 遠隔 ）　(3-1.15.10)
	11. 配管材料	1) 蒸気管　給気管　・ 配管用炭素鋼鋼管(黒)　・　(2-2.1.2.2) 還　管　・ 配管用炭素鋼鋼管(黒)　・　(2-2.1.2.2) 2) 油管　屋　内　・ 配管用炭素鋼鋼管(黒) 地中埋設　・ ポリエチレン被覆鋼管(２層管)（ＰＬＰ） 屋外露出　・ 塩化ビニル被覆鋼管（ＰＬＶ） ピット内　・ ポリエチレン被覆鋼管(１層管)（ＰＬＳ）（ＰＬＳ－Ｆ） 3) 冷温水管　・ 配管用炭素鋼鋼管(白)　・　(2-2.1.2.1) 4) 冷却水管　・ 配管用炭素鋼鋼管(白)　・　(2-2.1.2.1) 5) 膨張管、空気抜き管及び膨張タンクよりボイラーへの給水管は配管用炭素鋼鋼管(白)とする。 6) 給水管（加湿用）　・ 配管用炭素鋼鋼管(白)　・　(2-2.1.2.5) 7) 排水管（ドレン管）　・ 配管用炭素鋼鋼管(白)　・　(2-2.1.2.6) 8) 冷媒配管　・ 銅管　・断熱材被覆銅管　(2-2.1.2.4)
	12. 冷媒	1)ﾊﾟｯｹｰｼﾞ空調機（ ・R32　・　）　・指定無　(2-2.2.1)
	13. 弁類	・ JIS又はJV（ ・ 5K　・ 10K（図示部分）） ・ 鋼管用伸縮管継手の種類は図示による。 ・ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。
	14. 温度計	取付部は下記による。なお温度計は円形指示計（バイメタル式）とする　(2-2.3.2) 1) 冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） 2) 直だき吸収冷温水機の冷温水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） 3) ボイラーの温水管（返り） 4) 空気調和機の冷温水管（送り、返り）及び三方弁装置の冷温水管（返り） 5) 熱交換器の冷温水管（送り、返り） 6) 冷温水ヘッダーの往ヘッダー及び各返り管 7) 空気調和機の（パッケージ形を含む）のサプライチャンバー、レタンダクト、外気取入れダクト及びレタンチャンバー 8) 温風暖房機の吐出ダクト、レタンダクト、外気取入れダクト及びレタンチャンバー
	15. 圧力計	取付部は下記による　(2-2.3.1) 1) 冷凍機の冷水管（送り、返り）及び冷却水管（送り、返り） 2) 直だき吸収冷温水機の冷温水管(送り、返り)及び冷却水管(送り、返り) 3) 空気調和機の冷温水管(送り、返り) 4) 熱交換器の冷温水管(送り、返り)
	16. 瞬間流量計	瞬間流量計はピトー管方式によるもので止水コック付とし、形式及び取付部は下記による。 なお、着脱形の指示計は（ ・ 40Ａ用　個 ・ 100Ａ用　個 ・ 250Ａ用　個 ）タッピング付とする。　(2-2.3.8) 1) 冷凍機の冷水管及び冷却水管(送り又は返り)に（ ・ 着脱形　・ 固定形 ）を設ける。 2) 直だき吸収冷温水機の冷温水管及び冷却水管(送り又は返り)に（ ・ 着脱形　・ 固定形)を設ける。 3) 空気調和機の冷温水管(送り又は返り)に（ ・ 着脱形　・ 固定形 ）を設ける。 4) 冷温水ヘッダーの（ ・送り管　・ 返り管 ）に（ ・ 固定形　・ 着脱形 ）を設ける。
	17. 油面制御装置	制御盤には（ ・ 給油ポンプ制御　・ 満油警報　・ 遠隔警報　・ 電磁弁制御 ・ 返油ポンプ制御　・ 減油警報　・　)の端子を設ける。 なお油面制御装置と制御盤間配管配線は製造者の標準仕様とする。　(2-2.3.5)
	18. 絶縁フランジ	図示の箇所に取り付ける。　(2-2.2.12)

章	項　　目	特　　記　　事　　項
○空気調和暖房設備	19. 保温及び消音内貼り	標準仕様書第２編３．１．４による。ただし、下記については本仕様による。　(2-3.1.4) 1) 冷水管、冷温水管の保温は、標準仕様書第２編３．１．４表２．３．２によるが、防火区画貫通部分はロックウール保温材で行う。 2) 還りダクトの保温(保温の厚さ　25㎜)範囲は図示による。 3) 外気ダクトの保温(保温の厚さ　25㎜)範囲は図示による。 4) 膨張管及び膨張タンクよりボイラーへの補給水管の保温は、標準仕様書第２編３．１．４の膨張管の項による。　(2-3.1.4) 5) 建物内の空気抜き管の保温は、標準仕様書第２編３．１．４の膨張管の項による。　(2-3.1.4) 6) 空気調和機及びファンコイルユニットの排水管の保温は、標準仕様書第２編３．１．５の排水管の項による。　(2-3.1.5) 7) 冷媒管の保温外装は下表による。なお、保温化粧ケースは耐候性を有する樹脂製とする。 屋内露出　・ 合成樹脂製カバー　・ 保温化粧ケース 屋外露出　・ ステンレス鋼板　・ 保温化粧ケース
○換気設備	1. ダクト	低圧ダクト　・ アングルフランジ工法　(3-1.14.1) ・ コーナーボルト工法（ ・ 共板フランジ　・ スライドオンフランジ ） ・ スパイラルダクト 高圧１ダクト（適用範囲は図示による）
	2. 風量測定口	取り付け箇所は　(3-1.14.10) （ ・ 図示した位置　・ 送風機吐出ダクト又は吸込ダクト　・ 外気取入れダクト)とする。
	3. チャンバー	空気調和暖房設備の当該項目による。　(3-1.14.5)
	4. 防煙ダンパー	空気調和暖房設備の当該項目による。　(3-1.15.8)
	5. ﾋﾞｽﾄﾝﾀﾞﾝﾊﾟｰ	空気調和暖房設備の当該項目による。　(3-1.15.10)
	6. 排気ダクトのシール	Nシール＋Aシール＋Bシールをする系統は下記による。　(3-2.2.1(ｆ)) ・ 厨房系統　・ 浴室(シャワー室、脱衣室を含む)系統
	7. 保温	・ 全熱交換器用の外気及び排気ダクト（保温の厚さ 25㎜）　保温種別は標準仕様書第２編3.1.4とする。 ・ 多湿箇所のダクト（保温の厚さ25㎜、範囲は図示による） ・ 外壁から約1m以内のダクト（保温の厚さ 25㎜）　(2-3.1.4)
	8. 耐火措置	自家発電機室用換気ダクトが自家発電機室以外を通過する場合の耐火措置は図示による。
○排煙設備	1. ダクト	・ 亜鉛鉄板　・　(3-2.2.6)
	2. 排煙口の形式	・ 天井取付（ ・スリット形　・ パネル形 ）　(3-1.15.5) ・ 壁取付 （ ・スリット形　・　）
	3. 排煙口手動開放装置	開放及び復帰方式は下記による。　(3-1.15.5) ・ ワイヤー式　・ 電気式（遠隔操作　・ 不要　・ 要）
	4. 排煙風量測定	建築設備定期検査業務基準書(平成２０年版)（(一財)日本建築設備・昇降機センター）の排煙風量の検査方法に準ずる。
○自動制御設備	1. 中央監視制御	・ 有り（ ・ 新設　・ 既設 ）　・ 無し　(4-1.4.1)
	2. 中央監視制御装置の構成・機能	図示による。　(4-1.4.2)
	3. 電気計装工事の配線	電線、ケーブルはＥＭ電線等とする。（機器、盤類は除く）　(4-1.5.1) 屋外、屋内露出の配線は、図面に特記のない限り金属管配線とする。 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記のない限りケーブル配線とする。
●衛生器具設備	1. 小便器用節水装置	図面に特記なき場合は、洗浄水量が4L/回以下であり、また、使用状況により洗浄量を制御するものとする。　(5-1.1.2) ・ 個別感知フラッシュ方式（ ・ 埋込形　・ 露出形　・ 便器一体形 ） 長時間不洗浄を補償する洗浄機構を設ける。
	2. 大便器洗浄弁	図面に特記なき場合は、洗浄水量が10.5L/回以下とする。　(5-1.1.2)
	3. 大便器耐火カバー	・ 設ける(ピット内は除く)　・ 設けない
	4. 手洗器	・ 止水栓付とする。　(5-1.1.2)
	5. 衛生器具	・ 水抜栓を使用する場合は、水栓は固定こま式とする。　(5-1.1.6)
	6. 水栓	・ 台所流し用水栓は泡沫式とする。 ・ 水抜栓を使用する場合、屋外に設ける水栓は耐寒水栓とする。
	7. 自動水栓	電源供給方式（ ・ AC100V　・ 乾電池　・ 発電式 ）　(5-1.1.7)
	8. 水石けん入れ	・ 横形（押しボタン）　・ 立形　・ アンダー形　(5-1.1.11)
	9. 排水金物	材質は標準仕様書第５編1.7.1のほかステンレス製としてもよい。

H21.4.1　改訂

章	項　　目	特　　記　　事　　項
○給水設備	1. 引込工事	・ 有（ ・ 本工事　・ 別途工事 ）　・ 無 ※加入負担金は別途
	2. 量水器	・ 親メーター（ ・ 貸与品　・　）　・ 子メーター（ ・ 買取　・　）　(2-2.2.16)
	3. 量水器桝	・ 水道事業者指定品（ ・ 貸与品　・ 買取 ）　・ 標準図 ＭＣ形　(5-1.8.4) 量水器桝及び弁桝のコンクリート部は工場製品としてもよい。
	4. 配管材料	1) 一般配管　・ ポリ粉体ライニング鋼管（PB）　・ ステンレス鋼管　(2-2.1.2.5) ・ 厨房、浴室等のシンダー内配管はポリ粉体ライニング鋼管（PD） 2) 地中埋設配管　・ ポリ粉体ライニング鋼管（PD）　・ ステンレス鋼管 ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP）　・ ポリエチレン管 3) 水道直結配管(屋外) 地中埋設配管は（ ・ ポリ粉体ライニング鋼管（PD）　・ ステンレス鋼管 ・ 水道用硬質ポリ塩化ビニル管（HIVP）　・ ポリエチレン管)とし他の部分は1)による。 4) 給水引込管（量水器の１次側）は水道事業者の指定によるものとし、材質は図示による。
	5. 弁類	・ 水道直結部分　JIS又はJV（ ・ 10K　・　）　(2-2.2.1) ・ その他部分　JIS又はJV（ ・ 5K　・　） ・ 呼び径65以上の鋳鉄製の弁はライニング弁とする。 ・ 逆止弁の衝撃吸収式はライニング不要とする。 ・ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。
	6. 水栓柱	・人造石研出し製　・合成樹脂製　・アルミニウム合金製　・ステンレス鋼製　(2-2.2.23)
	7. 絶縁フランジ	図示の箇所に取り付ける。　(2-2.2.12)
	8. 保温	下記のタンクは保温を行う。　(5-1.4.2.4)(5-1.4.2.5) ・ 鋼板製高置タンク　・ 鋼板製受水タンク
	9.建物導入部配管	標準図（ ・ （ａ） ・ （ｂ） ・ （ｃ））による。　(2-2.4.1)
	10. 地中埋設標	1) 地中埋設標　・ 要(図示の箇所)　・ 不要　(2-2.7.1) 2) 埋設表示テープ(倍折金属箔付き)　・ 要　・ 不要
	11.受水槽	1) 材質・形状　・鋼板製一体形 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製ﾊﾟﾈﾙ（溶接組立）　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製ﾊﾟﾈﾙ（ﾎﾞﾙﾄ組立） ・FRP製一体形　・FRP製ﾊﾟﾈﾙ 2) 仕様区分　・屋内　・屋外 ・標準型　・耐雪型（・積雪　m ・　）
	12.高架水槽	1) 材質・形状　・鋼板製一体形 ・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製ﾊﾟﾈﾙ（溶接組立）　・ｽﾃﾝﾚｽ鋼板製ﾊﾟﾈﾙ（ﾎﾞﾙﾄ組立） ・FRP製一体形　・FRP製ﾊﾟﾈﾙ 2) 仕様区分　・屋内　・屋外 ・標準型　・耐雪型（・積雪　m ・　）
	13.緊急遮断弁装置	・設ける（ ・ 受水槽　・ 高架水槽）　・ 設けない　(2-2.2.22) 遮断弁駆動装置（ ・ 電気式　・ 機械式） 地震感知器（ ・ 電子式　・ 機械式）
	14.雑用水通水試験	飲料水以外の給水管は、誤接続がないことを確認するため衛生器具等の取付け完了後、系統毎に着色水を用いた通水試験等を行う。　(2-2.9.3(b))

工事名	ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事
番号	M-03
図面名	工事仕様書（機械設備）　3／5
縮尺	———
監　修	羽咋市教育委員会
設　計	株式会社 アスカ設備研究所

章	項　　目	特　　記　　事　　項
○排水設備	1. 配管材料	1) 屋内汚水管　・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ・耐火２層管（VP）　・ 2) 屋内雑排水管　・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ・耐火２層管（VP）　・ 3) 排水通気管　・硬質ポリ塩化ビニル管（VP） ・リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管(RF-VP) ・耐火２層管（VP）　・ 4) 屋外排水管　・硬質ポリ塩化ビニル管（VP）　・コンクリート管 5) ポンプアップ排水管　・排水用ノンタールエポキシ塗装鋼管 ・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)　・ 6) 管の継手　・配管用炭素鋼管（白）の接合は、標準仕様書第２編2.1.2.6による MDジョイントを使用してもよい。
	2. 洗面器等の排水管	洗面器及び手洗器に直結する排水管は、器具トラップより１サイズアップとする。 公団形流し等の床上露出部分の配管は、硬質ポリ塩化ビニル管でもよい。
	3. 満水試験継手	図示箇所に取り付ける。
	4. ｲﾝﾊﾞｰﾄ桝・ため桝	標準図によるコンクリート桝及び小口径桝 桝のコンクリート部分は、工場製品としてもよい。
●給湯設備	① 配管材料	給湯管（膨張管及び補給水タンクよりボイラーなどへの補給水管を含む。）は ・銅管　・ステンレス鋼管　・耐熱性塩ビライニング鋼管（・ SGP-HVA　・　） ⊙ 耐熱性ビニル管（HTVP） とする。ただし、銅管を使用する場合で壁又は床埋設箇所は、被覆銅管又は保温付被覆銅管としてもよい。
	② 弁類	⊙ JIS又はJV（⊙ 5K　・ 10K(図示部分)） ⊙ ステンレス配管を使用する場合の材質はステンレス製とする。
	3. 絶縁フランジ	図示の箇所に取り付ける。
	④ 保温	下記によるほか、標準仕様書による。 湯沸器の給排気筒（二重管）の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第２編3.1.5のh･(ｲ)･Ⅸとする。
○消火設備	1. 配管材料	1) 屋内消火栓　一般　・配管用炭素鋼管(白) 地中　・消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（SGP-VS） 2) 連結送水管　一般　・配管用炭素鋼管（白） 地中　・消火用硬質塩化ビニル外面被覆鋼管（SGP-VS）
	2. 屋内１号消火栓箱	・ HB － 1A　・ HB － 1B　・
	3. 易操作性１号消火栓箱	・ HB － 1A　・ HB － 1B　・
	4. 屋内２号消火栓箱	・ HB － 4A　・ HB － 4B　・
	5. 屋内消火栓開閉弁	・ 10K
	6. 地中埋設管の接合	外面被覆鋼管の呼び径 100A 以下はねじ接合とする。
	7. 保温	屋外露出部以外の箇所で凍結する恐れがある箇所には、標準仕様書第２編３．１．５の給水管の項による保温を行う。保温の範囲は図示による。（防凍保温は一般共通事項による。）
	8. 建物導入部配管	標準図（・ （ａ）　・ （ｂ）　・ （ｃ））による。
	9. 地中埋設標	1) 地中埋設標　・ 要（図示の箇所）　・ 不要 2) 埋設表示テープ(倍折金属箔付き)　・要　・ 不要
○厨房機器設備	1. 機器の寸法	参考寸法とする。
	2. 燃焼機器	使用ガス（ ・ 都市ガス　・ 液化石油ガス ）
	3. 機器の固定	標準仕様書によるほか、次の機器は固定する。（ ・　・　）
	4. システム	・ ドライシステム　・ ウェットシステム
	5. 安全装置	安全装置の適用は、標準仕様書第５編1.6.1の表5.1.7による。　(5-1.6.1)

章	項　　目	特　　記　　事　　項
○ガス設備	1. 配管材料	1) 屋内　・配管用炭素鋼管(白) 2) 地中埋設　・ポリエチレン被覆鋼管（２層管）（PLP）　・ガス用ポリエチレン管 3) 屋外露出　・塩化ビニル被覆鋼管（PLV）　・配管用炭素鋼管(白) 4) ピット内　・ポリエチレン被覆鋼管（１層管）（PLS）(PLS-F)
	2. 充填容器	・ 別途（ ・ 50Kg　・ 20Kg　・ 10Kg ）×　本
	3. 集合装置	標準図「液化石油ガス容器廻り配管要領」による。（　）本立て。
	4. 転倒防止等	標準図（ ・（ａ）　・（ｂ））による。
	5. メーター	・ 親メーター（ ・ 貸与品　・　） ・ 子メーター（ ・ 買取　・　）
	6. ガス漏れ警報器	・ 本工事（図示による）　・ 別途工事 外部警報端子（ ・ 無　・ 有 ）
	7. ガス遮断装置	・ 要　・ 不要
	8. 漏洩検知装置	・ 要　・ 不要
	9. 電気防食	・ 要　・ 不要
	10. 建物導入部配管	標準図（・ （ａ）　・ （ｂ）　・ （ｃ））による。
	11. 地中埋設標	1) 地中埋設標　・ 要（図示の箇所）　・ 不要 2) 埋設表示テープ（倍折金属箔付き）　・ 要　・ 不要
○さく井設備	1. 井戸の深さ	GL－　m
	2. ｹｰｼﾝｸﾞ材料	・ 配管用炭素鋼管(黒)　・ 配管用ステンレス鋼管
	3. ｽｸﾘｰﾝの位置	GL－　m ～　m
	4. 連続揚水試験	・ 要（ ・ 24時間　・　時間 ）　・ 不要
	5. 水質試験	・ 行う
○合併処理設備	1. 配管材料・弁類	図示による。
	2. 山止め	山止め壁　・ 要　・ 不要
	3. 手続等	官公署への手続又は変更手続は、契約後30日以内とし、請負者が代行処理する。 （手続き等にかかる費用はすべて請負者の負担とする。）
	4. 測定表	放流水質の測定表を提出する。
	5. 維持管理	工事完成引渡後６ヶ月間は請負者が維持管理し、７条検査を実施する。
○融雪設備	1. 配管材料	1) 送水管　・ 2) 散水管　・
	2. ノズル･ドレン	材質はステンレス製とし、形式は図示による。
	3. 弁類	・ 図示による　・ 図面に特記なき場合はJIS又はJV 5Kとする。
●温泉設備	① 配管材料	温泉配管は ⊙ 耐熱性塩化ビニル管（HTVP）　・ ステンレス鋼管　・ 耐熱性塩ビライニング鋼管 とする。ただし、銅管を使用する場合で壁又は床埋設箇所は、被覆銅管又は保温付被覆銅管としてもよい。
	② 弁類	・ JIS又はJV（ ・ 5K　・ 10K(図示部分)） ⊙ 塩ビ配管を使用する場合の材質は樹脂製（耐熱）とする。
	3. 絶縁フランジ	図示の箇所に取り付ける。
	④ 保温	下記によるほか、標準仕様書による。 湯沸器の給排気筒（二重管）の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第２編3.1.5のh･(ｲ)･Ⅸとする。

章	項　　目	特　　記　　事　　項
●撤去工事	① 撤去内容	図示による。
	② 保温材	保温材は、配管・ダクトより分離する。
	③ 支持金物等	ダクト及び配管等の支持金物・吊りボルト等は本工事にて撤去する。
	4. 冷媒(ﾌﾛﾝ類)の回収	フロン類を使用している機器の処理は下記による。 1) 関係法令 ・ 特定製品に係るフロン類の回収及び破壊の実施の確保等に関する法律（フロン回収破壊法） ・ 特定家庭用機器再商品化法（家電リサイクル法） 2) 業務用冷凍空調機器等（エアコンディショナー、冷蔵機器、冷凍機器等）で「フロン回収破壊法」の対象となっている機器 ・「第一種フロン類回収業者登録通知書」の写しを提出 ・「フロン類回収証明書」を提出 3) 家庭用のエアコン等で「家電リサイクル法」の対象となっている機器 ・「特定家庭用機器廃棄物管理表」の写しを提出
	⑤ 発生材の処理等	引渡しを要するものは指定された場所に整理のうえ、調書を添えて監督員に引き渡す。 ⊙ なし　・ あり（ ・　・　・　）
		特別管理産業廃棄物 ⊙ なし　・ あり（ ・ 廃石綿等　・　・　）
		処理を行う廃石綿等（ ・ 成形保温エルボ　・ダクトパッキン　・煙導パッキン ・ボイラー等パッキン ・　・　）
		・廃石綿等について、施工前に事前調査を行い、その結果を監督員に提出すること。 受注者は、適正な処理をマニフェストにより確認し、マニフェスト一覧表を監督員に提出して、監督員の確認を受ける。
		再生資源化を図るもの ・ なし　・ あり（ ・ 塩ビライニング鋼管、継手　・ 硬質ポリ塩化ビニル管、継手 ・　）
	⑥分析によるアスベスト調査	※行わない　・行う（調査箇所は図示）

（別表－１）他工事との取り合い　　※本受電後の電力基本料金については、建築・設備業者にて負担すること。

工　事　内　容			機械設備	電気設備	建築工事	備　考
開口部	はり・床・壁の貫通部（ＲＣ造）	スリーブ・仮枠	●			
		補強筋			●	建築図面に図示
		穴埋め	●			
	天井・壁の切り込み	切り込み	●			
		下地補強			●	建築図面に図示
外部取付ガラリ（ダクト、チャンバの接続用フランジを含む）					●	建築図面に図示
換気扇の取付枠					●	
床下水槽のマンホール蓋					●	
ステンレス流し台（排水トラップ共）					●	
湯沸室の排気フード					●	
床、天井、壁の点検口					●	
油サービスタンクの防油堤					●	
プロパンボンベ庫（鋼板製は除く）					●	
下流し、足洗い場、玄関の排水			●			
洗面所、手洗所等の鏡、ﾀｵﾙ掛け（下地共）、はめ込型洗面器用ｶｳﾝﾀｰ					●	
実験台(陶器製流し、化学水栓、ガス栓、コンセント共付属品を含む)					●	
実験台への配管及び配管接続			●			
ボイラーの煙突、エレベーター乗り場、三方枠					●	鋼板製三方枠は昇降機設備
身障者用手すり（便所、浴室等）					●	
機器の基礎	屋内設備		●			
	屋上設備（架台、アンカーボルトを除く）				●	
	屋外設備		●			
	架台、アンカーボルト		●			
	特記した基礎					
電気配管配線	機器付属の制御盤以降の配管配線（接地共）		●			
	機器付属の制御盤への電源供給配管配線		●			
	制御盤と動力盤間の電源供給及び操作回路の渡り配管配線			●		
	機器と付属操作スイッチとの渡り配管配線			●		
	防火戸、防煙ダンパ用制御盤の一次側配管配線			●		
	小便器用節水装置の制御盤以降の配管配線			●		
	衛生器具用凍結予防装置の制御盤への電源供給及び盤以降の配管配線		●			

（注）　鉄骨部分のスリーブ・補強は建築工事

工事名　ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	番号　M-04
図面名　工事仕様書（機械設備）　４／５	縮尺　＿＿＿
設　計　羽咋市教育委員会	
設　計　株式会社 アスカ設備研究所	

（別表－２）　配管（バンド）塗装色標準

色バンド（機械室等で２本以上の配管が並ぶ所）			室内露出配管塗装色
配　管　区　分	マンセル記号	日本塗料工業会	
給水管	5BG9/2	R9-631	原則として壁面に合わす
排水管	N9	R1-1031	〃
給湯管	7.5R8.5/4	R6-148	〃
ガス管	2.5Y8/12	R35-308	〃
消火栓管	7.5R4/15	R38-163	〃
ｽﾌﾟﾘﾝｸﾗｰ配管	10R5.5/14.5	R38-134	〃
連結送水管	7.5R4/15	R38-163	〃
二酸化炭素配管	7.5R4/15	R38-163	〃
泡消火管	7.5R4/15	R38-163	〃
冷温水管	2.5P5/5	R19-937	〃
温水管	5R7/7	R29-151	〃
冷却水管	5B5/6	R13-741	〃
冷水管	10B6/7	R19-737	〃
ドレン管	5PB4/6.5	R23-806	〃
油配管	7.5YR5/6	R21-214	〃
蒸気管	7.5R3/6	R27-143	7.5R3/6(R27-143)

（別表－３）電子納品仕様書

1. 電子納品とは、出来形管理資料や工事写真等の工事完成図書を電子データで納品するものである。
   ここでいう電子データとは、下表に示す各種電子納品要領等で定めるフォーマットに基づいて作成されたものを指す。

名　　称	摘　要
営繕工事電子納品要領（平成24年版）	平成24年4月
営繕工事写真撮影要領（平成24年版）・同解説工事写真の撮り方（建築設備編）	平成24年4月
官庁営繕事業に係る電子納品運用ガイドライン【営繕工事編】（平成24年版）	平成24年4月

   基準・要領類のダウンロード ： http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_cals_cals.htm

2. 工事関係書類の最終成果品を、従来の紙での納品と別にCD-Rで1部納品する。なお、工事写真については、カラープリンタで出力したものでよい。

3. 工事着手時には、事前協議チェックシートを用いて事前協議を行うものとする。工事関係書類の内、電子データで提出するものは、事前協議にて決定する。

4. 発注者が行うCALS/EC電子納品に関する調査について協力を行うものとする。

5. 工事完成図書の提出の際は、以下の項目を確認するものとする。
   1) 電子成果物作成支援・検査システムによるチェックを行い、エラーがないことを確認すること。
      入手先：http://www.mlit.go.jp/gobuild/kijun_cals_supportsys.htm
   2) 最新のウイルスチェックソフトで、提出物にウイルスが混入していないことを確認すること。
   3) 電子納品の媒体はCD-Rを利用することとする。

設備機材等指定表（機械設備）

ＪＩＳ品目

品　目	機　材　名	適　用　範　囲	記　事
管及び継手	鋼管		ＪＩＳ　Ｇ　３４５２ （配管用炭素鋼鋼管）
	スケジュール鋼管		ＪＩＳ　Ｇ　３４５４ （圧力配管用炭素鋼鋼管）
	ステンレス鋼管		ＪＩＳ　Ｇ　３４４８ （一般配管用ステンレス鋼鋼管）
	ポリエチレン被覆鋼管		ＪＩＳ　Ｇ　３４６９ （ポリエチレン被覆鋼管）
	銅管		ＪＩＳ　Ｈ　３３００ （銅及び銅合金継目無管）
	ビニル管		ＪＩＳ　Ｋ　６７４１ （硬質ポリ塩化ビニル管）
			ＪＩＳ　Ｋ　６７４２ （水道用硬質ポリ塩化ビニル管）
			ＪＩＳ　Ｋ　９７９８ （リサイクル硬質ポリ塩化ビニル発泡三層管）
	ポリエチレン管		ＪＩＳ　Ｋ　６７６２ （水道用ポリエチレン二層管）
	コンクリート管		ＪＩＳ　Ａ　５３７２ （遠心力鉄筋コンクリート管）
	鋼管及び外面被覆鋼管継手		ＪＩＳ　Ｂ　２３０１ （ねじ込み式可鍛鋳鉄製管継手）
			ＪＩＳ　Ｂ　２３０２ （ねじ込み式鋼管製管継手）
	鋼管継手		ＪＩＳ　Ｂ　２３０３ （ねじ込み式排水管継手）
	ビニル管継手		ＪＩＳ　Ｋ　６７３９ （排水用硬質ポリ塩化ビニル管継手）
			ＪＩＳ　Ｋ　６７４３ （水道用硬質ポリ塩化ビニル管継手）
弁	青銅弁		ＪＩＳ　Ｂ　２０１１ （青銅弁）
	鋳鉄弁		ＪＩＳ　Ｂ　２０３１ （ねずみ鋳鉄弁）
			ＪＩＳ　Ｂ　２０５１ （可鍛鋳鉄１０ｋねじ込み形弁）
			ＪＩＳ　Ｂ　２０６２ （水道用仕切弁）
	鋳鋼弁		ＪＩＳ　Ｂ　２０７１ （鋼製弁）
保温材	ロックウール保温材		ＪＩＳ　Ａ　９５０４ （人造鉱物繊維保温材）
	グラスウール保温材		
	ポリスチレンフォーム保温材		ＪＩＳ　Ａ　９５１１ （発泡プラスチック保温材）
衛生陶器及び水栓	衛生陶器		ＪＩＳ　Ａ　５２０７ （衛生器具－便器・洗面器）
	水栓		ＪＩＳ　Ｂ　２０６１ （給水栓）
放熱器付属品	放熱器トラップ		ＪＩＳ　Ｂ　８４０１ （蒸気トラップ）
接合材	溶接棒		ＪＩＳ　Ｚ　３２１１ （軟鋼、高張力鋼及び低温用鋼用被覆アーク溶接棒）
			ＪＩＳ　Ｚ　３３２１ （溶接用ｽﾃﾝﾚｽ鋼溶加棒、ｿﾘｯﾄﾞﾜｲﾔ及び鋼帯）

水マーク表示品目等

品　目	機　材　名	適　用　範　囲	記　事
管及び継手	耐熱性ライニング鋼管	ＳＧＰ－ＨＶＡ （給湯用）	ＪＷＷＡ　Ｋ　１４０ （水道用耐熱性硬質塩化ビニルライニング鋼管）
	ポリ粉体鋼管	ＳＧＰ－ＰＢ （一般配管用）	ＪＷＷＡ　Ｋ　１３２ （水道用ポリエチレン粉体ライニング鋼管）
		ＳＧＰ－ＰＤ （地中配管用）	
	ビニル管		ＪＷＷＡ　Ｋ　１２９ （水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管）
	ビニル管継手		ＪＷＷＡ　Ｋ　１３０ （水道用ゴム輪形硬質ポリ塩化ビニル管継手）
	鋳鉄管		ＪＷＷＡ　Ｇ　１１３ （水道用ダクタイル鋳鉄管） ＪＷＷＡ　Ｇ　１１４ （水道用ダクタイル鋳鉄異形管）
	鋼管継手	排水用	ＪＰＦ　ＤＦ　００１ （排水用ねじ込み式鋳鉄製管継手）
	断熱材被覆銅管	冷媒管	ＪＣＤＡ　０００９（断熱材被覆銅管）
	保温付被覆銅管	給水・給湯管	ＪＣＤＡ　０００８（保温付被覆銅管）

認定品目

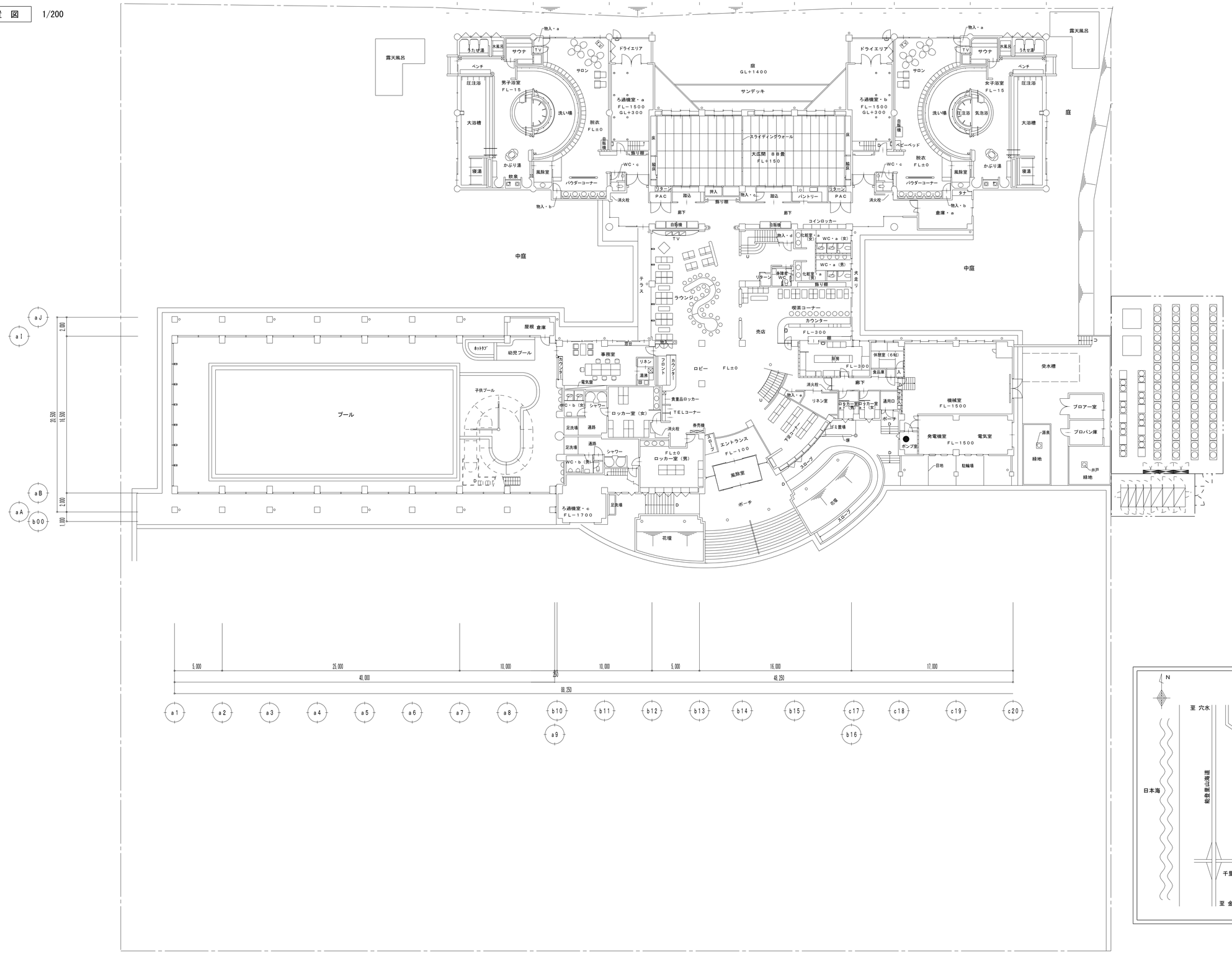
品　目	機　材　名	適　用　範　囲	記　事
保温材	ポリスチレンフォーム保温材	保温板及び筒以外の成形品	ＪＩＳマーク表示認可工場で製造されたもの
ポンプ	消火ポンプユニット		(一財)日本消防設備安全センターの認定証票が貼付されたもの
ガス湯沸器	貯湯湯沸器		(一財)日本ガス機器検査協会の合格証票が貼付されたもの
	瞬間湯沸器		
排煙機	排煙機		(一財)日本建築センターの性能評定マークが貼付されたもの
ガス漏れ警報装置類	ガス漏れ警報器		(一財)日本ガス機器検査協会、高圧ガス保安協会又は（一財）日本ｴﾙﾋﾟｶﾞｽ機器検査協会の合格証票が貼付されたもの
	ガス漏れ警報装置	中継器及び受信機	日本消防検定協会又は高圧ガス保安協会の合格証票が貼付されたもの
	ガス遮断装置		(一財)日本ガス機器検査協会又は(一財)日本エルピーガス機器検査協会の合格証票が貼付されたもの
ダクト付属品	防火ダンパー		日本防排煙工業会の適合証票が貼付されたもの
	防火防煙ダンパー		
阻集機	グリース阻集器	工場製作品 （１０００ﾘｯﾄﾙ以下）	日本阻集器工業会グリース阻集器認定委員会の認定証票が貼付されたもの

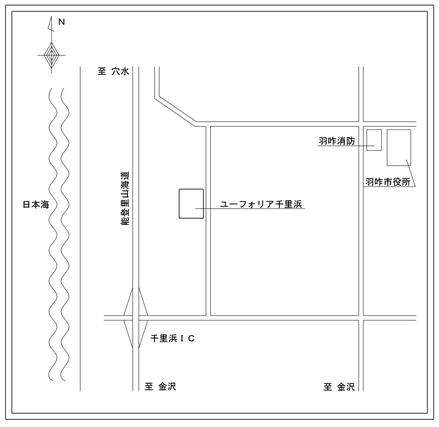
評価名簿

品　目	記　事
ボイラー、温水発生機、冷凍機、冷却塔、空気調和機、空気清浄装置、全熱交換器、送風機類、ポンプ類、ダクト付属品、自動制御、衛生器具ユニット、タンク、消火装置、厨房機器、鋳鉄製ふた　等	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿 （最新年版）」による

工事名　ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	番号　M-05
図面名　工事仕様書（機械設備）　５／５	縮尺　＿＿＿
設　計　羽咋市教育委員会	
設　計　株式会社 アスカ設備研究所	

配　置　図　1/200





付近見取図

訂正	承認	確認	担当	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
株式会社 アスカ設備研究所				ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	配置図・付近見取図	A1：1/200 A3：1/400	M － 06
						設計年月日 2015．9．	枚ノ内

凡例

記号	名称	備考
———	市水	
———	井水	
———	源泉	
——— R ———	ろ過循環 (往)	
——— RR ———	ろ過循環 (還)	
——— G ———	ガス	
——— X ———	消火	
——— I ———	給湯 (往)	
——— II ———	給湯 (還)	
———	汚水、雑排水	
FM	流量計	源泉関係はSUS製
M	量水器	ストレーナー共
PR	減圧弁	ストレーナー共
	仕切弁	JIS5K 防食型
	逆仕弁	JIS10K 防食型
M	電動二方弁	ストレーナー、バイパス共
M	電動三方弁	ストレーナー、バイパス共
S	ストレーナー	Y型、オイル槽式
	防振継手	合成ゴム式
	可とう継手	SUS製
	単式伸縮継手	ベローズ単式 (配管固定端共)
	複式伸縮継手	ベローズ複式 (配管固定端共)
T	温度計	
P	圧力計	
	連成計	
	気水分離器	自動エアー抜き弁付
	安全弁	SUS製

プール棟

浴場棟×2

ガスセパレーター (移設)

別途工事にて撤去

プレート増設

スライダー

男女ロッカー | シャワー | 洗眼 | シャワー | WC洗面 洗面

ホットタブ

水位計へ

温水プール (25m)

子供プール

幼児用

PAC

源泉

R

RR

水位計へ

うたせ湯

WC洗面 | シャワー | 休憩

飲泉

大浴槽

圧注気泡

水風呂

ラウンジ

洗面C

大広間コントリ ラウンジ 事務室

喫煙席インターホン コントリ

ガスセパレーター 移設
(屋上へ)

ブロワー室

80φ 量水器
(貸与品)

150φ 上水道本管

大浴槽循環配管更新
露天風呂循環配管更新
(男女共)

ピット内給湯メイン配管更新
(往き・還り共)

プロパン置場より

Ⓒ 浴プール排水

Ⓑ 浴室排水

Ⓐ 生活排水

敷地外側溝へ放流

温排水浄化槽

汚水浄化槽

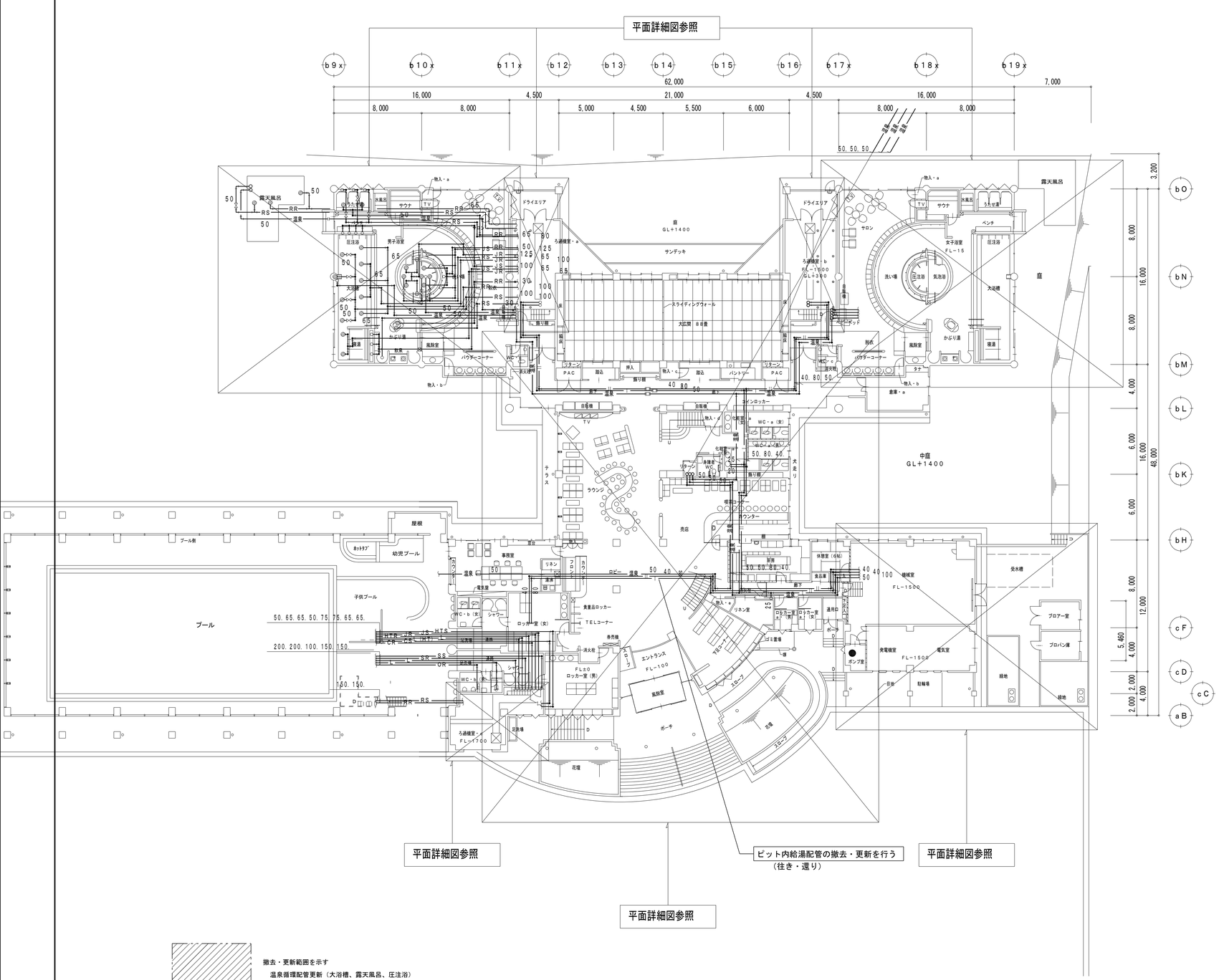
プール棟引き通系統図参照

浴槽棟引き通系統図参照

撤去・更新範囲を示す

訂正		株式会社 アスカ設備研究所	承認	確認	担当	工事名称	図面名称
						ユーフォリア千里浜 配管・熱交換器改修工事	既存配管系統図 (給排水)

縮尺	図面番号
A1: N.S A3: N.S	M − 07
設計年月日 2015. 9.	枚ノ内



平面詳細図参照

平面詳細図参照

ピット内給湯配管の撤去・更新を行う
（往き・還り）

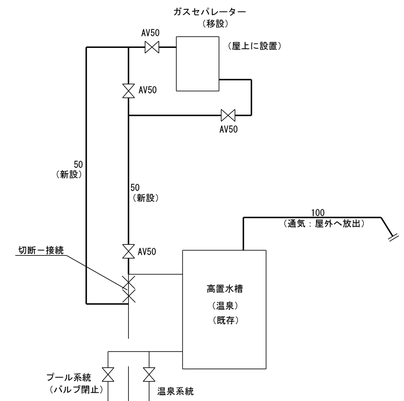
平面詳細図参照

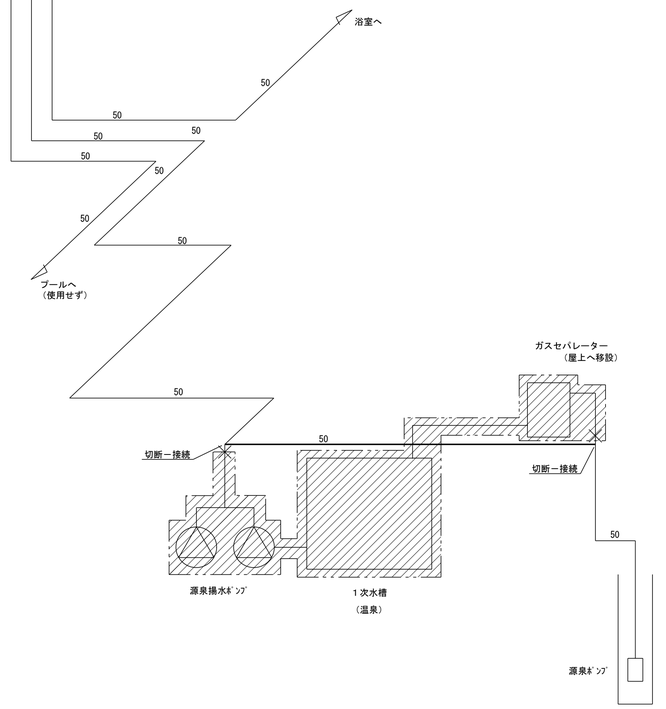
撤去・更新範囲を示す

温泉循環配管更新（大浴槽、露天風呂、圧注浴）
昇温用熱交換器更新
（自動弁は再使用とする）

温泉配管系統図

源泉ポンプで直接屋上まで揚水するシステムに変更する
ガスセパレーターは屋上に移設する



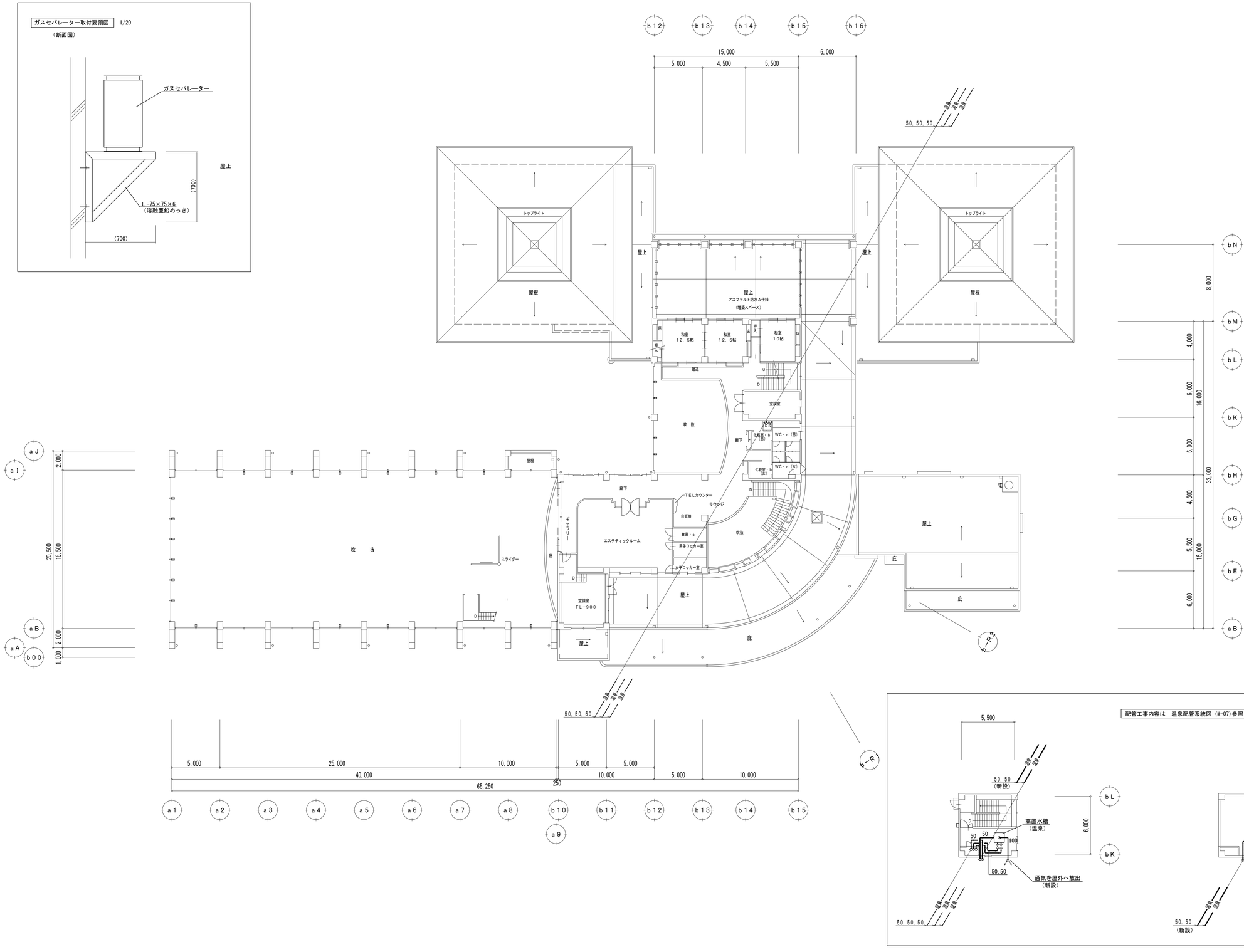


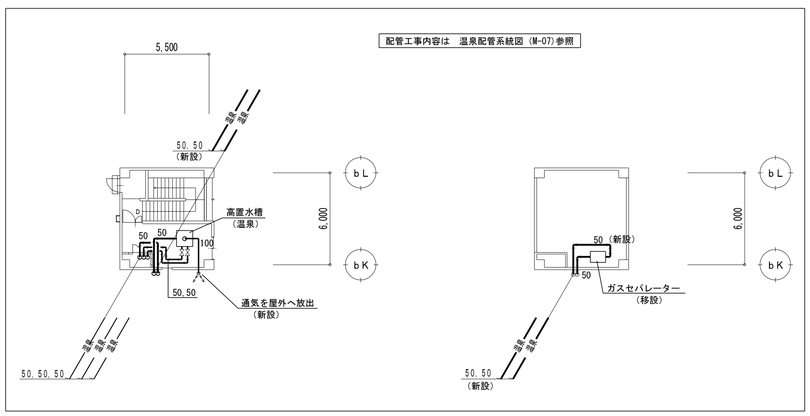
訂正	承認	確認	担当	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
				ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	１階　給湯・源泉配管平面図	A1: 1/200 A3: 1/400	M − 08
						設計年月日 2015. 9.	枚ノ内

株式会社 アスカ設備研究所

ガスセパレーター取付要領図　1/20

（断面図）

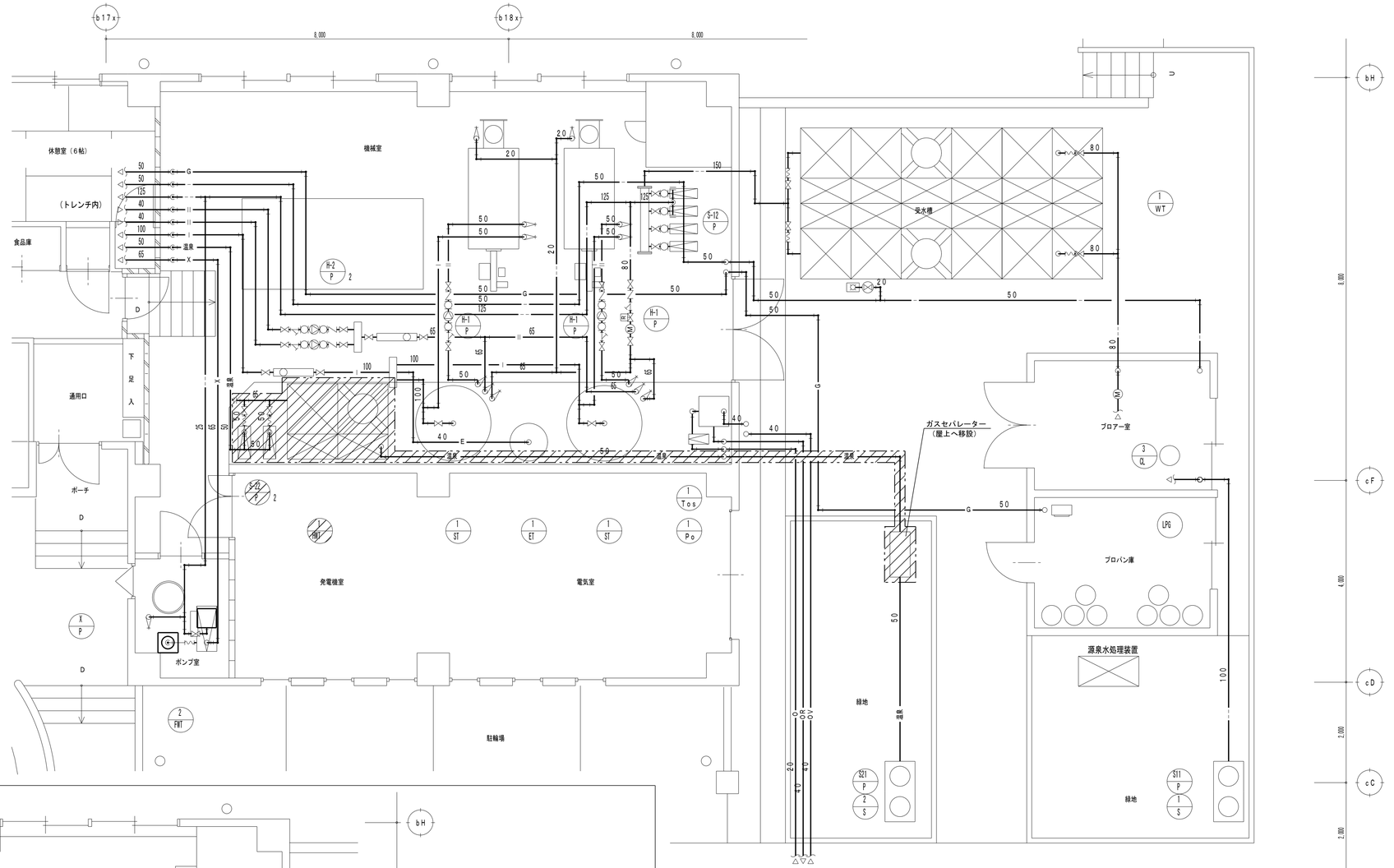




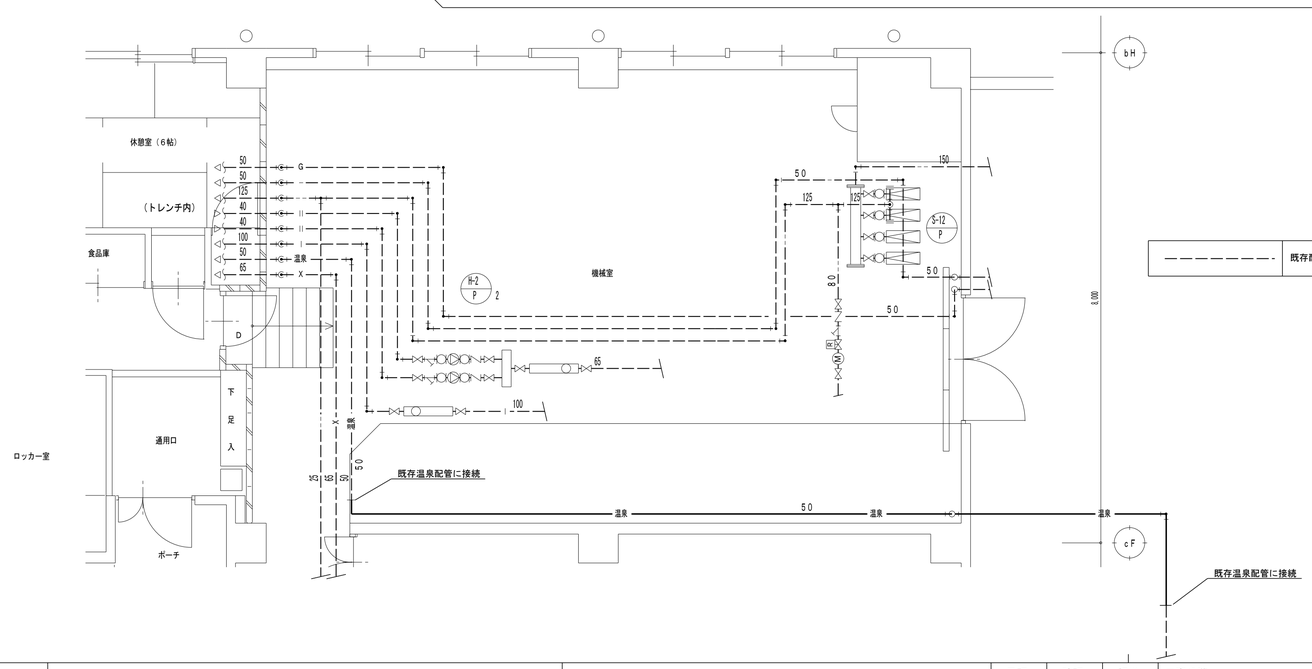
訂正	承認	確認	担当	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
				ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	２階　給湯・源泉配管平面図	A1: 1/200 A3: 1/400	M − 09
						設計年月日 2015．9．	枚ノ内

株式会社 アスカ設備研究所

1階機械室　S=1/50　（改修前）



1階機械室　S=1/50　（改修後）



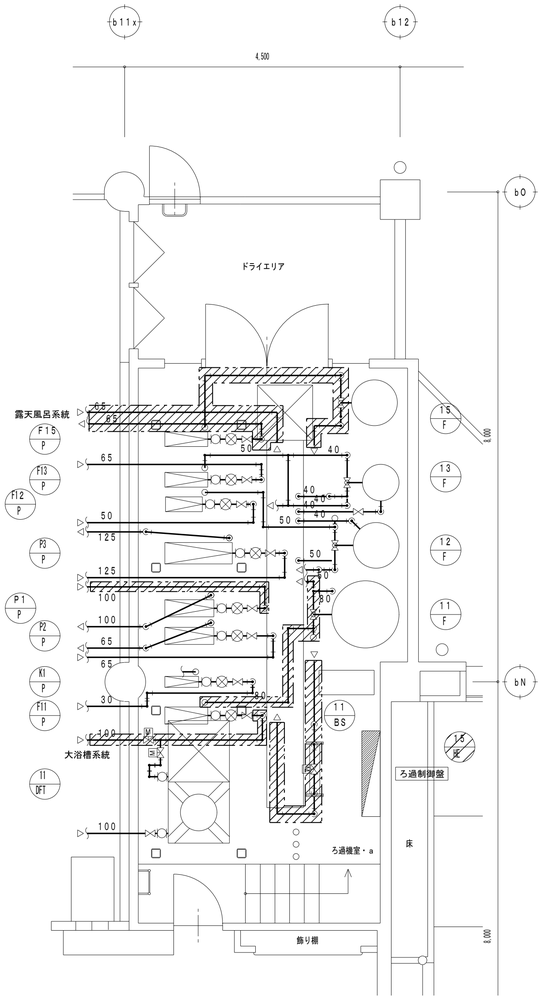
―――――	既存配管を示す

撤去範囲を示す
（工事に支障とならない配管・機器はそのままとする）

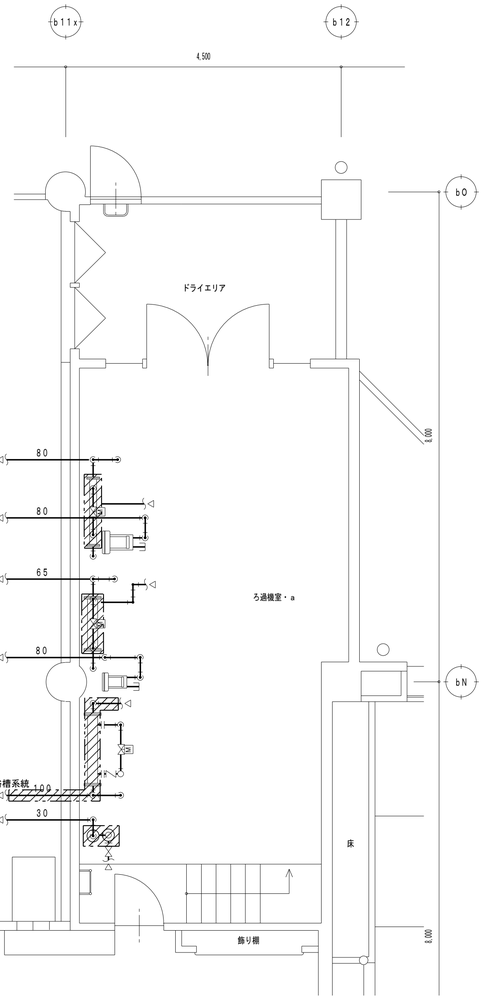
熱源機器等は別途工事にて撤去改修を行う

訂正		株式会社 アスカ設備研究所	承認	確認	担当	工事名称	図面名称
						ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	機械室配管平面詳細図（改修前後）

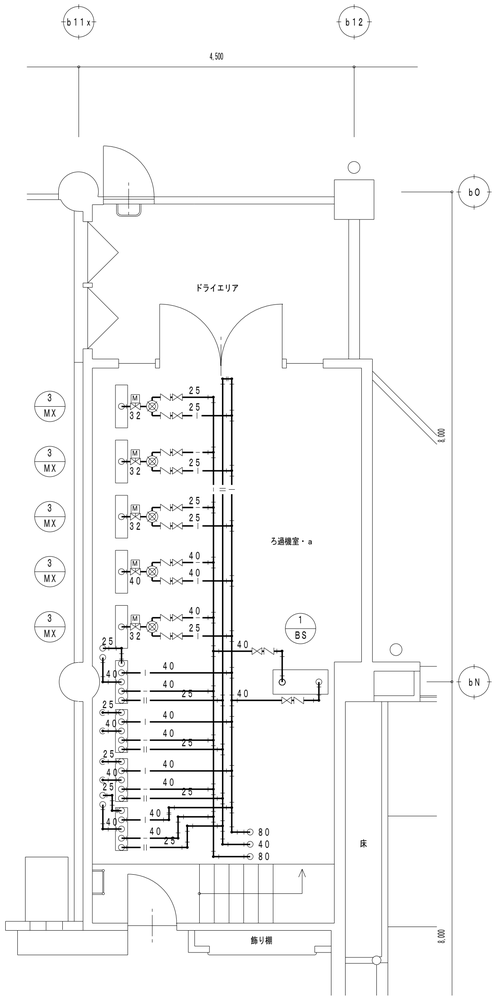
縮尺	A1: 1/50 A3: 1/100	図面番号 M － 10
設計年月日	2015. 9.	枚ノ内



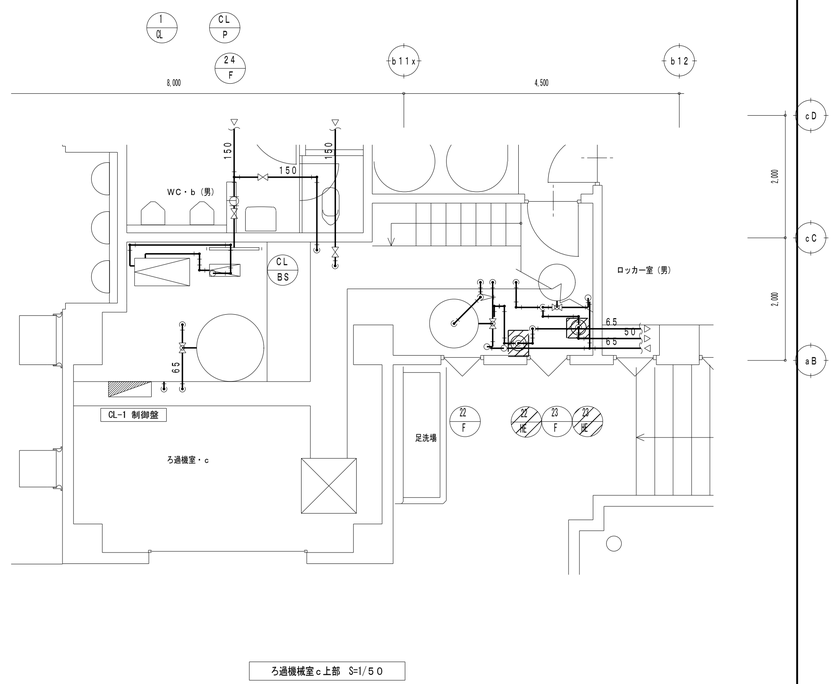
ろ過機械室　S=1/50
（男女共）



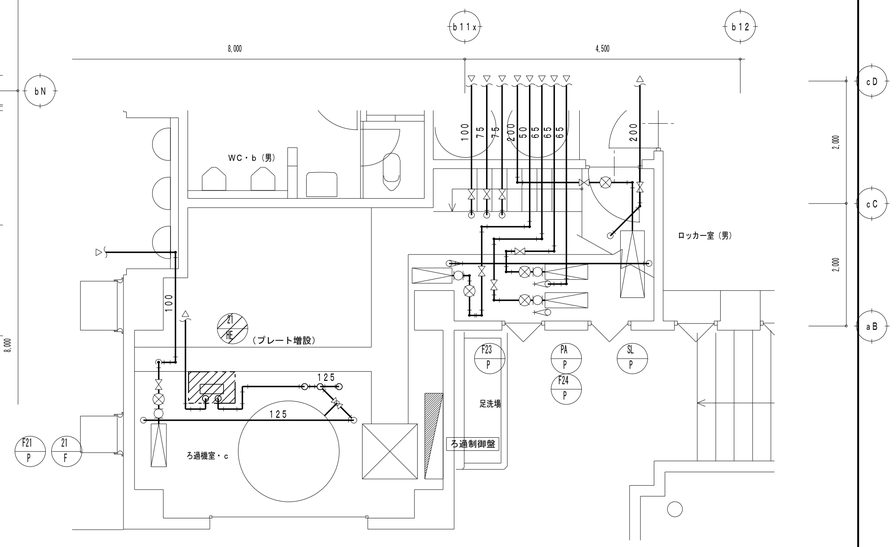
ろ過機械室a上部　S=1/50
（男女共）



ろ過機械室a上部　S=1/50
（男女共）



ろ過機械室c上部　S=1/50



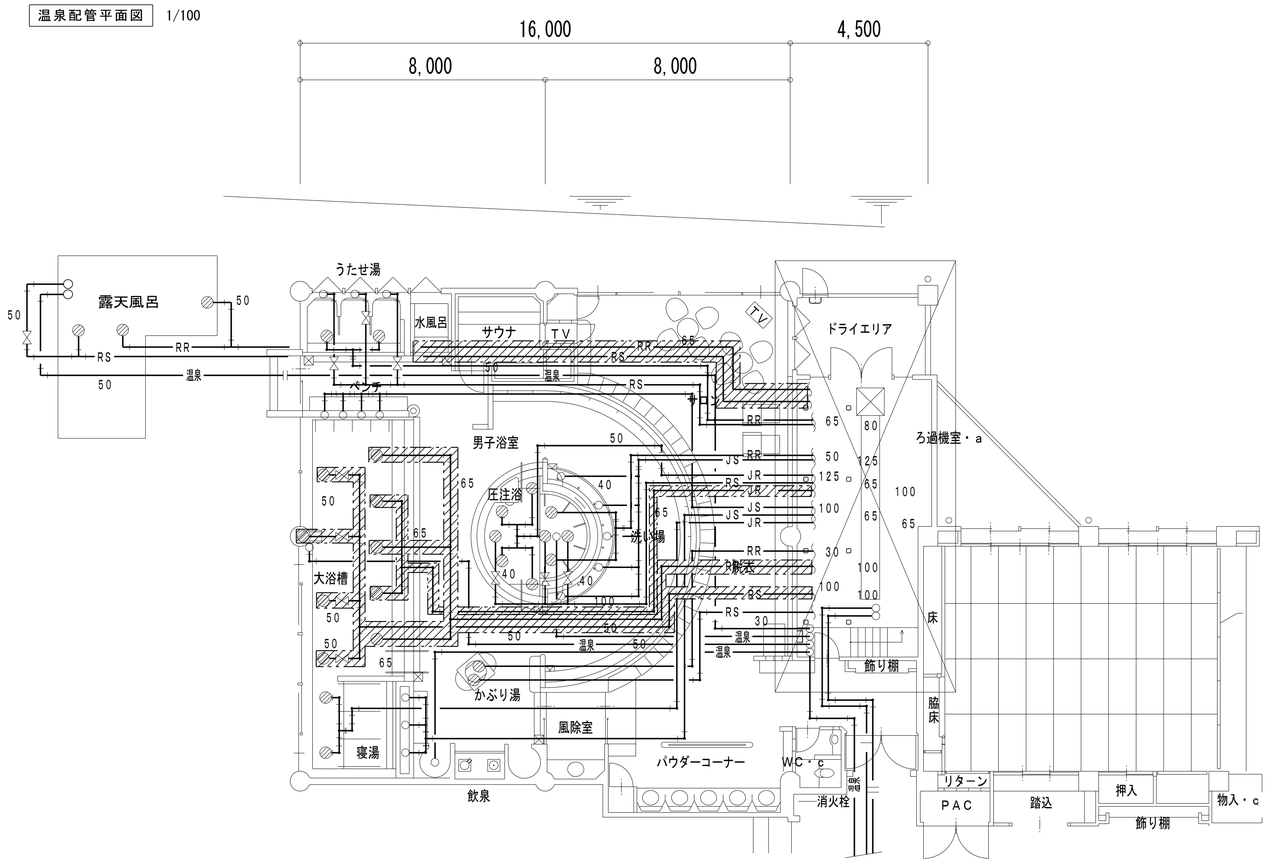
ろ過機械室c　S=1/50

撤去・更新範囲を示す

温泉循環配管更新（大浴槽、露天風呂）
昇温用熱交換器更新
（自動弁は再使用とする）

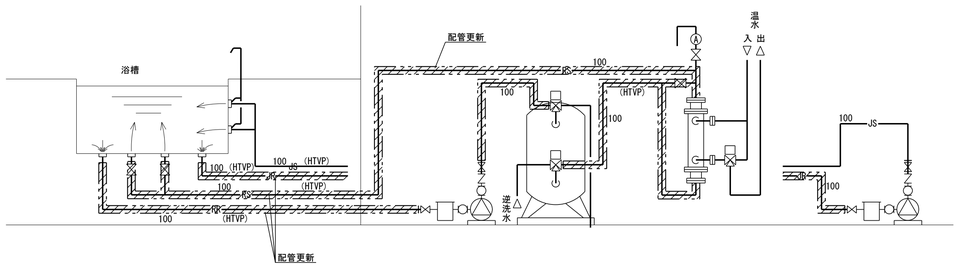
訂正		株式会社 アスカ設備研究所	承認	確認	担当	工事名称	図面名称	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100	図面番号 M － 11
						ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	ろ過機械室配管平面詳細図	設計年月日 2015. 9.	枚ノ内

温泉配管平面図　1/100



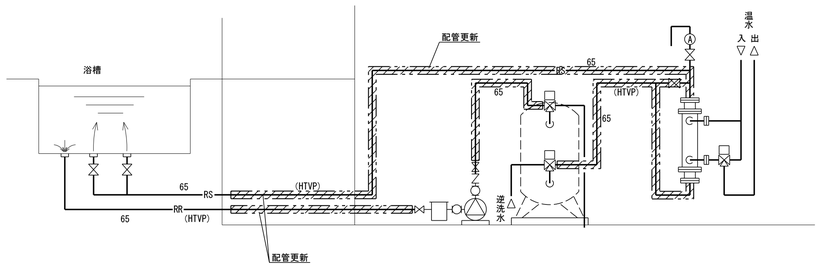
撤去・更新範囲を示す
温泉循環配管更新（大浴槽、露天風呂）
昇温用熱交換器更新
（自動弁は再使用とする）

温泉配管系統図
（大浴槽）



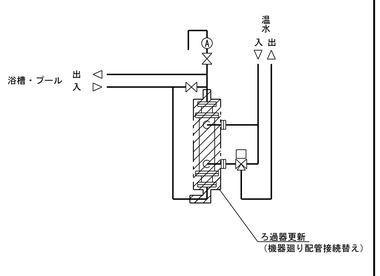
撤去・更新範囲を示す
温泉循環配管更新
（機器廻り弁類は再使用とする）

温泉配管系統図
（露天風呂）



撤去・更新範囲を示す
温泉循環配管更新
（機器廻り弁類は再使用とする）

熱交換器更新



撤去・更新範囲を示す
昇温用熱交換器更新
（自動弁は再使用とする）

訂正		株式会社 アスカ設備研究所	承認	確認	担当	工事名称	図面名称
						ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	温泉 配管平面図、配管系統図

縮尺	A1: 1/100 A3: 1/200	図面番号 M － 12
設計年月日	2015. 9。	枚ノ内

b10x　b11x　b12　b13　b14　b15　b16　b17x　b18x

8,000　4,500　5,000　4,500　5,500　6,000　4,500　8,000

bN　bM　bL　bK　bH　cF　cD　cC　aB

8,000　4,000　6,000　6,000　8,000　4,000　2,000　2,000　4,000　16,000　12,000

GV80 GV40 （新設）（更新範囲末端）
EXPJ40 （新設）
配管固定支持
GV80 GV40 （新設）（更新範囲末端）
50. 50. 50
脱衣
自販機
床
飾り棚
スライディングウォール
大広間　８８畳
脇床
D
ベビーベッド
洗い場
圧注浴
気泡浴
大浴槽
かぶり湯
寝湯
風除室
脱衣
パウダーコーナー
WC・c
消火栓
リターン
PAC
踏込
押入
物入・c
パントリー
温泉
40. 80. 50.
廊下
タナ
物入・b
倉庫・a
コインロッカー
物入・d
化粧室・a（女）
WC・a（女）
WC・a（男）
50. 80. 40.
化粧室・a（男）
身障者WC
25
20
50 50 50
EXPJ80 EXPJ40 （新設）
犬走り
中庭
GL＋1400
テラス
ラウンジ
GV25 GV20 （新設）
喫茶コーナー
カウンター
売店
棚
厨房
50. 50. 80. 40.
休憩室（６帖）
食品庫
40 40 100
50
機械室
FL－1500
窓台
物入
事務室
リネン
フロント
カウンター
ロビー
EXPJ40 （新設）
配管固定支持
温泉
50 40 80
電気盤
40 80
貴重品ロッカー
EXPJ80 EXPJ40 （新設）
WC・b（女）
シャワー
ロッカー室（女）
TELコーナー
リネン室
25
ロッカー室a・（男）
ロッカー室a・（女）
通用口
下足入
ポーチ
足洗場
通路
券売機
消火栓
スロープ
エントランス
FL－100
下足コーナー
ゴミ置場
塀
発電機室
電気室
FL－1500
ポンプ室
足洗場
通路
シャワー
FL±0
ロッカー室（男）
WC・b（男）
風除室
目地
駐輪場
ろ過機室・c
FL－1700
足洗場
ポーチ
花壇
スロープ
EXPJ100 EXPJ40 （新設）
ピット内給湯配管の撤去・更新を行う
（往き・還り）

塩ビ製伸縮継手取付要領図

U型（65Ａ以上）
配管支持固定　配管支持固定
塩ビ製伸縮継手
14m（伸縮量　±28mm）

O型（50Ａ以下）
配管支持固定　配管支持固定
塩ビ製伸縮継手
10m（伸縮量　±28mm）

撤去・更新範囲を示す
温泉循環配管更新（大浴槽、露天風呂）
昇温用熱交換器更新
（自動弁は再使用とする）

訂正	株式会社 アスカ設備研究所	承認	確認	担当	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
・ ・					ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	ホール廻り　給湯・源泉配管平面図	A1: 1/100 A3: 1/200	M － 13
・ ・							設計年月日 2015. 9.	枚ノ内
・ ・								

ろ過設備機器表　（改修前）

	ろ過器 記号	ろ過器 系統・用途	型式	数	ろ過能力 m2/h	材質	外形寸法 胴径φ	外形寸法 胴高H	仕上 内面	運転方法	警報	基礎	架台	備考	参考型番
	F-11	大浴槽	砂ろ過式	2	35	SS41	1100	1200	ｺﾞﾑﾗｲﾆﾝｸﾞ	全自動	盤一括	RC150H	亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬 共通架台	塩ビ製　電動５方弁　SUS製安全弁(2.5K)　自動ｴｱ抜き弁20A	
	F-12	圧注気泡浴槽	↓	2	10	↓	700	1400	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
	F-13	うたせ湯	↓	2	6	↓	500	1400	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
	F-21	温水ﾌﾟｰﾙ(NO.1)	↓	1	90	↓	2000	1200	ｴﾎﾟｷｼ	↓	↓	↓	↓	FC製	
	F-22	子供ﾌﾟｰﾙ	↓	1	12	↓	700	1400	ｴﾎﾟｷｼ	↓	↓	↓	↓	↓	
	F-23	ﾎｯﾄﾀﾌﾞ	↓	1	6	↓	500	1400	ｺﾞﾑﾗｲﾆﾝｸﾞ	↓	↓	↓	↓	塩ビ製	
	F-24	温水ﾌﾟｰﾙ オｰﾊﾞｰﾌﾛｰ	↓	1	20	↓	950	1700	ｴﾎﾟｷｼ	↓	↓	↓	↓	FC製	
	F-15	露天風呂	↓	2	18	FRP	800	1250		↓	↓	↓	↓	塩ビ製	

	熱交換器 記号	熱交換器 系統・用途	型式	数	材質	交換熱量 kcal/h	一次側 流体	一次側 入口温度 ℃	一次側 出口温度 ℃	一次側 流量 L/min	二次側 流体	二次側 入口温度 ℃	二次側 出口温度 ℃	二次側 流量 L/min	架台		参考型番
撤去	HE-11	大浴槽昇温	多管式	2	SUS316	171000	温水	70	60	285	源泉	38	43	583	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
撤去	HE-12	圧注気泡昇温	↓	2	↓	50000	↓	↓	↓	83	↓	38	43	167	↓		
撤去	HE-13	うたせ湯昇温	↓	2	SUS304	30000	↓	↓	↓	50	温水	38	43	100	↓		
撤去	HE-14	掛湯昇温	↓	2	↓	18000	↓	↓	↓	30	↓	38	43	60	↓		
改修	HE-21	温水ﾌﾟｰﾙ昇温	プレート式	1	↓	500000	↓	↓	↓	833	↓	24.5	30	1500	↓		
撤去	HE-22	子供ﾌﾟｰﾙ昇温	多管式	1	↓	94000	↓	↓	↓	156	↓	24	32	200	↓		
撤去	HE-23	ﾎｯﾄﾀﾌﾞ昇温	↓	1	SUS316	57000	↓	↓	↓	95	源泉	37	46.5	100	↓		
撤去	HE-15	露天風呂	多管式	2	SUS316	90000	↓	↓	↓	165	源泉	41	46.5	300	↓		

ろ過設備機器表　（改修後）

	ろ過器 記号	ろ過器 系統・用途	型式	数	ろ過能力 m2/h	材質	外形寸法 胴径φ	外形寸法 胴高H	仕上 内面	運転方法	警報	基礎	架台	備考	参考型番
既存	F-11	大浴槽	砂ろ過式	2	35	SS41	1100	1200	ｺﾞﾑﾗｲﾆﾝｸﾞ	全自動	盤一括	RC150H	亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬 共通架台	塩ビ製　電動５方弁　SUS製安全弁(2.5K)　自動ｴｱ抜き弁20A	
既存	F-12	圧注気泡浴槽	↓	2	10	↓	700	1400	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
既存	F-13	うたせ湯	↓	2	6	↓	500	1400	↓	↓	↓	↓	↓	↓	
既存	F-21	温水ﾌﾟｰﾙ(NO.1)	↓	1	90	↓	2000	1200	ｴﾎﾟｷｼ	↓	↓	↓	↓	FC製	
既存	F-22	子供ﾌﾟｰﾙ	↓	1	12	↓	700	1400	ｴﾎﾟｷｼ	↓	↓	↓	↓	↓	
既存	F-23	ﾎｯﾄﾀﾌﾞ	↓	1	6	↓	500	1400	ｺﾞﾑﾗｲﾆﾝｸﾞ	↓	↓	↓	↓	塩ビ製	
既存	F-24	温水ﾌﾟｰﾙ オｰﾊﾞｰﾌﾛｰ	↓	1	20	↓	950	1700	ｴﾎﾟｷｼ	↓	↓	↓	↓	FC製	
既存	F-15	露天風呂	↓	2	18	FRP	800	1250		↓	↓	↓	↓	塩ビ製	

	熱交換器 記号	熱交換器 系統・用途	型式	数	材質	交換熱量 kW	一次側 流体	一次側 入口温度 ℃	一次側 出口温度 ℃	一次側 流量 L/min	二次側 流体	二次側 入口温度 ℃	二次側 出口温度 ℃	二次側 流量 L/min	架台	備考	参考型番
新設	HE-11	大浴槽昇温	多管式	2	SUS304-ﾁﾀﾝ	130	温水	55	48	285	源泉	41	44.2	583	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
新設	HE-12	圧注気泡昇温	多管式	2	SUS304	40	温水	55	48	83	温水	41	44.4	167	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
新設	HE-13	うたせ湯昇温	多管式	2	SUS304	24	温水	55	48	50	温水	41	44.4	100	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
新設	HE-14	掛湯昇温	多管式	2	SUS304	14	温水	55	48	30	温水	41	44.4	60	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
改修	HE-21	温水ﾌﾟｰﾙ昇温	プレート式	1	SUS304	492	温水	55	46.5	833	温水	30	34.7	1500	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬	プレート増設、消耗部品は交換、圧力試験を行う	
新設	HE-22	子供ﾌﾟｰﾙ昇温	多管式	1	SUS304	92	温水	55	46.5	156	温水	30	36.6	200	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
新設	HE-23	ﾎｯﾄﾀﾌﾞ昇温	多管式	1	SUS304	46	温水	55	48	95	温水	40	46.6	100	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		
新設	HE-15	露天風呂	多管式	2	SUS304-ﾁﾀﾝ	80	温水	55	48	165	源泉	41	44.8	300	壁掛ﾌﾞﾗｹｯﾄ 亜鉛ﾄﾞﾌﾞ漬		

株式会社 アスカ設備研究所

承認	確認	担当

工事名称：ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事

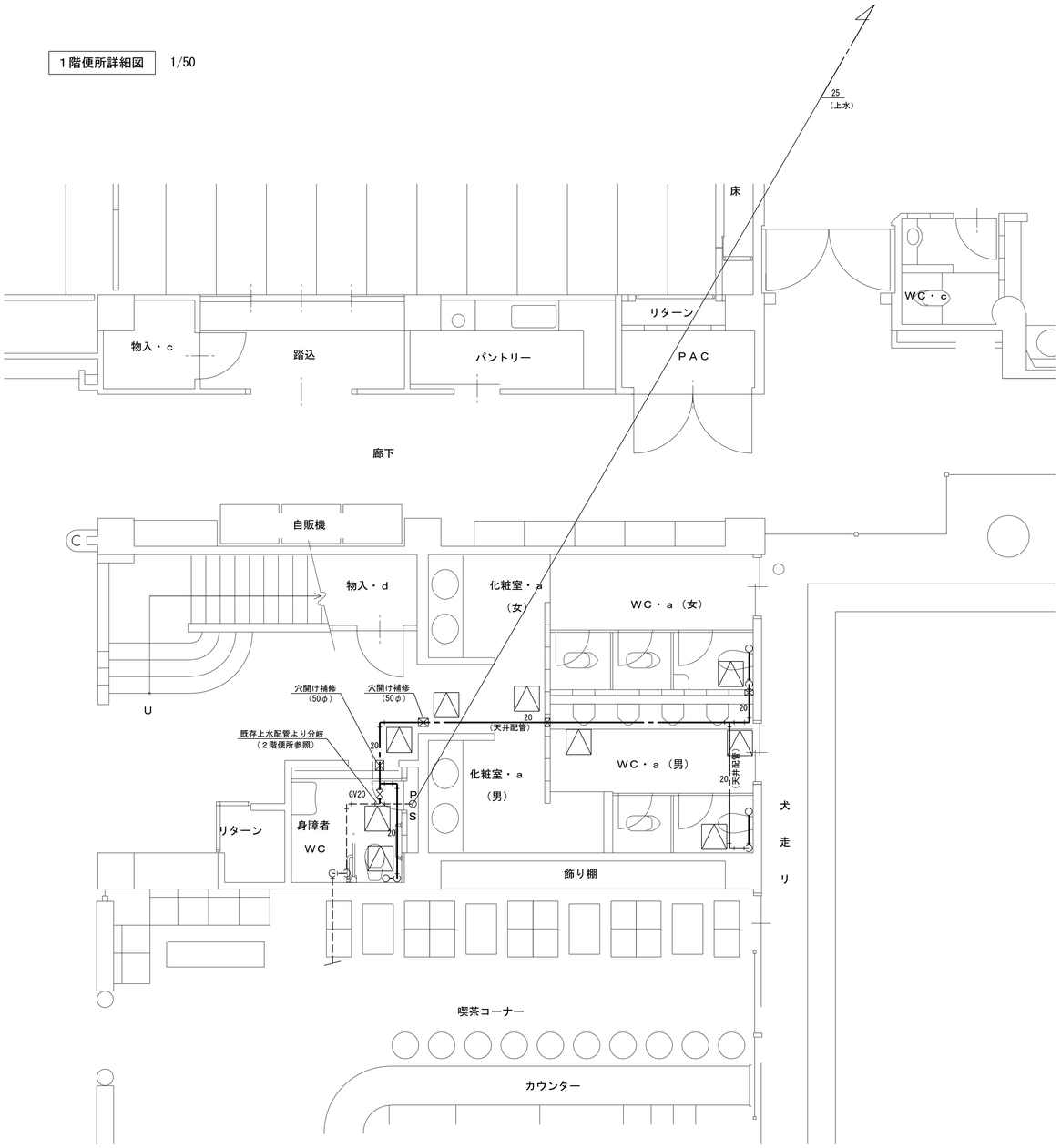
図面名称：ろ過設備　機器表

縮尺：A1: N.S　A3: N.S

設計年月日：2015. 9.

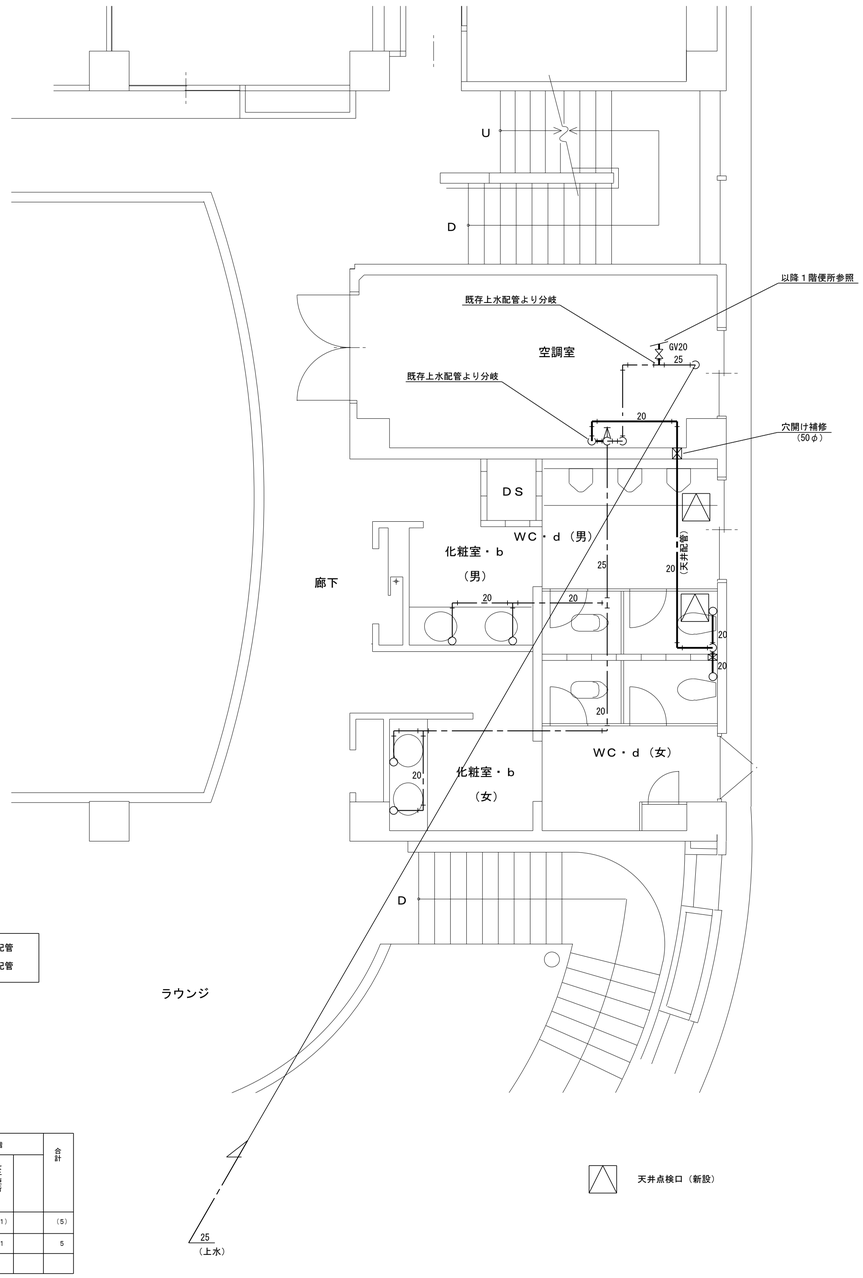
図面番号：M － 14

１階便所詳細図　1/50



天井点検口（新設）

２階便所詳細図　1/50



凡　例

新設給水配管

既存給水配管

天井点検口（新設）

衛生器具リスト

器具名	型式品番	1階 男子便所	1階 女子便所	1階 身障者便所	2階 男子便所	2階 女子便所		合計
洋風便器	C１１１０SR（既存：普通便座取外し）	（1）	（1）	（1）	（1）	（1）		（5）
温水洗浄便座	TCF6621	1	1	1	1	1		5

訂正	承認	確認	担当	工事名称	図面名称	縮尺	図面番号
。。 。。 。。 。。				ユーフォリア千里浜　配管・熱交換器改修工事	便所詳細図	A1：1/50 A3：1/100	M － 15
株式会社 アスカ設備研究所						設計年月日 2015．9。	枚ノ内